

目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	… 2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性	… 2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	… 2

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

千葉大学医学部では現行の入学定員 117 名を維持する。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

千葉大学では、地域医療を担う医師の減少に対処するために医師の地域定着を促進する教育課程を導入・実施してきた。しかしながら、地域医療を担う医師の不足は継続しているため、本学では医学部入学定員増員後の定員を維持して、より多くの地域医療を担う医師の養成を目指すものである。

一方、研究医養成については、研究に従事する医師の減少による基礎系の教員確保や医学教育の質の低下について危惧する声や、我が国の国際競争力を強化するという社会的要請が大きくなってきているため、平成 25 年度に臨時定員増として措置された研究医枠定員 2 名について、令和 2 年度の臨時定員増の終了後も同数の定員を維持して、引き続き研究医の養成を目指すものである。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容

地域枠については、令和 4 年度入学者より、地域枠学生を対象とする科目「地域医療学」の内容を充実させている。

また、研究医枠学生を対象とする科目「スカラーシップ・アドバンスプログラム」及び「イノベティブ先端治療学・アドバンス」の内容を充実させるとともに、学部在籍中の大学院科目の先行履修を認める。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

【地域枠学生】

現在、1 年次向けに「地域医療学」を開講し、講義や実習を通して地域医療を学ぶ機会を提供している。また、1～4 年次向けに「チーム医療 I～IV (IPE I～IV)」を開講し、講義の他に保健、医療、福祉現場の見学や地域医療におけるプライマリケアの実践を組み込んでいる。さらに、3 年次向けに「医師見習い体験学習」を開講し、自らのキャリアについて考察する機会を提供するとともに、チーム医療同様、地域医療におけるプライマリケアの実践を組み込んでいる。4～6 年次の臨床実習では、各診療科の実習を地域医療機関で行う機会がある。さらに 6 年次向けには「地域医療実習」を開講し、学生が地域医療の現場体験や関連する学会に参加することにより、その重要性や課題の理解を図っている。また、既述の「地域医療学」については、学習機会を 2 年次以後にも提供し、地域医療に関連して自らのキャリアパスについて考える機会を提供している。

【研究医枠学生】

現在、研究医枠の学生は、一般学生の選択科目である「スカラーシップ・アドバンスプログラム」を必修科目として履修し、配属された研究室で研究指導を受けている。また、「イノベティブ先端治療学・アドバンス」を履修することによりイノベーションマインドを高めている。上記に加え、「スカラーシップ・アドバンス特別コース」履修者のうち、「スカラーシップ・アドバンスプログラム」の単位修得者及び単位修得見込み者（研究を継続しており、卒業までに成果をあげ、単位修得が可能と指導教員が認めた者）には、2 年次以降に特定の大学院科目の先行履修を認め、発展的な内容の科目の早期受講を推奨し、現在の

研究活動の更なる発展に資するとともに、卒後の大学院進学時の受講の負担を軽減し、研究時間の確保を図ることを目的とする。

(ウ) 教員組織の変更内容

収容定員変更後の教育課程を実施・運営するための教員を十分に配置している。

教育課程の実施・運営のためには、教員の理解と実践が不可欠であるため、FD、ワークショップなどを開催し、教員の教育に対する理解の深化と指導力（モチベーションを含む）向上を図ることとしている。

地域枠学生が必修単位として履修する科目のユニット責任者として、医学部教員がカリキュラム及び参画する教員間との共同体制を構築し、地域医療を担う医師の育成を実践し、今後もこの共同体制をより充実させていく。

研究医枠の教育実践の向上のため、「スカラシップ・アドバンスト特別コース」に中心に関わる教員が研究医枠担当教員として学部学務委員会の委員として活動している。

(エ) 施設・整備の変更内容

令和3年度に医学系総合研究棟が竣工し、教育・学習スペースが充実した。講義室や実習室の整備とともに、グループ学習室を増設し、新たにアクティブラーニングスペースを設けた。グループ学習室やアクティブラーニングスペースは、従来からのチュートリアル教育のほか、研究医枠学生向けの「イノベティブ先端治療学・アドバンスト」や地域枠学生向けの「地域医療学」等で活用しており、教育環境の充実を図ることができている。

また、医学部附属病院に隣接した立地であるため、臨床系教員の利便性向上により、診療参加型臨床実習のより一層の充実、基礎系教室と臨床現場円滑な接続に寄与している。

大学名	国公立
千葉大学	国立

1. 現在（令和5年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
117	0	0	702

↑
(収容定員計算用)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
(ア) 入学定員	117	117	117	117	117	117	702
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	117	117	117	117	117	702

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和6年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	0	0	600

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	100	600
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和6年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
117	0	0	617

↑
(収容定員計算用)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
(ア) 入学定員	117	100	100	100	100	100	617
(イ) 2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	100	100	100	100	100	617
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **17**

↑
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	15
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	2
計	17

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数 | 15

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県 千葉県	15
大学所在地以外の都道府県	
計	15

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R4とR5の貸与 者数のうち多い 方の数
千葉県	15	20	15	20	20
					0
					0
					0
					0
計	15	20	15	20	20

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和6年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和4年度に実施した地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合) その診療科名	開始年度	備考
			うち臨時定員分							
千葉県地域枠 入試	(iii) 一般選抜 地域枠(前期・ 後期)	別枠(区別 型)	20	15	ア 選抜方法 入学者の選抜は、令和5年度入学共通予士の成績、個別学力検査等の結果及び推薦書の内容を総合して行います。(過年度の入学共通予士の成績は利用しません。) 合格者の決定は、総合得点により行います。 なお、同点者の順位については、文学部、法政経学部、工学部、医学部及び薬学部においては、本学の個別学力検査等の得点が上位の者を優先します。 また、合否判定基準を別に定めている学部があります。 イ 合否判定基準 前期学部、工学部、医学部、薬学学部 個別学力検査等の得点が当該学部・学科等受験者の平均点に満たない(教科・科目等)があった場合には、不合格とすることがあります。 ウ 2段階選抜の実施 第1段階選抜の予定倍率を超える学部・学科については、志願者が募集人員に対する予定倍率を超えた場合には、2段階選抜(各学部・学科が指定する入学入学共通予士の教科・科目の成績(基準)の総得点により第1段階選抜を行い、その合格者についてのみ個別学力検査等を行う。)を実施することがあります。	出願要件(医学部医学科千葉県地域枠入試の志願者のみ) 医学部医学科の千葉県地域枠入試に出席できる者は、「(1) 出願資格」に加え、次の①～③の出願要件をすべて満たす者とし、 ① 本学に入学する意志を有し、合格した際に入学を確約できる者 ② 出願時に千葉県医師修学資金の賞与申請を行い、修学資金を借り受ける者 ③ 将来、医師として千葉県知事が定める医師不足地域の医療機関に千葉県医師修学資金の貸付期間の1.5倍に相当する期間、従事しようとする強い意志がある者 ----- (1) 出願資格 令和5年1月実施の令和5年度入学入学共通予士入学共通予士で各学部 学科 課程 コース分野が指定する教科 科目を受験した者で、入学入学資格を有するもの又は令和5年3月までに有する原込みのもの	無		R2	
合計			20	15						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和5年度に実施する地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。
また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数	選抜方法(※1)		出願要件(※1)	診療科の限定の有無	(診療科の限定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
千葉県地域枠入試	(iii) 一般選抜地域枠(前期・後期)	別枠(区別型)	20	15	<p>(7) 選抜方法は、令和6年度大学入学共通テストの成績、個別学力検査簿の結果及び別冊裏の内容を総合して行います。(過年度の大学入学共通テストの成績は利用しません。)</p> <p>合格者の決定は、総合得点により行います。</p> <p>なお、同点者の順位決定については、文学部、法政経学部、工学部、医学部及び薬学部においては、本学の個別学力検査等の得点が上位の者を優先します。</p> <p>また、合否判定基準を別に定めています(※1)。</p> <p>(1) 合否判定基準(参考)</p> <p>(1) 2段階選抜の実施</p> <p>は、志願者数が募集人員に対する余裕倍率を超えた場合、1段階選抜の予備倍率を振り仮次の学部・学科で、志願者数が募集人員に対する余裕倍率を超えた場合、2段階選抜を行ない、その合格者についての個別学力検査等を行う。)を実施することがあります。ただし、余裕倍率を緩和する場合があります。</p> <p>(2) 合否判定基準</p> <p>教育学部、工学部、医学部、看護学部</p> <p>個別学力検査簿の得点が当該学部・学科受験者の平均点に満たない、教科・科目等があった場合には、不合格とすることがあります。</p>	無		R2		
合計			20	15						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒業後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和6年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

（参考：記入例）

1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

（参考：記入例）

平成21年度から地域枠による増員を開始し、「地域医療学」Iチーム医療 I～IV（IPE I～IV）「医師見習い体験学習」I「地域医療実習」などの授業の開講や、医師修学資金に係る委員会を設置し、千葉県医師修学資金制度の候補者の選考、受給学生の学業・進路等の相談などを行ってきた。令和5年度までに249名の地域枠学生を確保し、そのうち108名が現在、臨床医として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の 別	単 位 数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年次	チーム医療 I (IPE I)	全員	必修	必修	講義及び実習	2	H21以前
2年次	チーム医療 II (IPE II)	全員	必修	必修	講義及び実習	1	H21以前
3年次	チーム医療 III (IPE III)	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
4年次	チーム医療 IV (IPE IV)	全員	必修	必修	講義	1	H22
3年次	医師見習い体験 学習	全員	必修	必修	講義及び実習	1	H21以前
6年次	地域医療実習	全員	必修	必修	講義及び実習	1	H21以前
1～6年次	地域医療学 I	地域枠学生	必修	必修	講義及び実習	1	R2

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみ対象の場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：〇週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和4年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
千葉県地域医療魅力発見セミナー	千葉県地域医療支援センター主催のセミナーに本学教員も協力しており、講演、グループワーク、地域病院スタッフとの交流会等を通して、地域医療についての理解を深めることを目的としている。	H28

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 研究医養成のための入学定員増について

増員希望人数 2

(1) 令和6年度研究医養成のための入学定員増について 大学が講ずる措置

※令和5年度までの取組を継続して行う場合には、必要に応じて見直しを行ったうえで、当該取組も記載すること。

1. コンソーシアムの形成

①以下をご記入ください。複数のコンソーシアムを形成している場合には、コンソーシアムごとに記入ください。

	連携大学	取組の概要（1～3行程度）	(連携大学が研究医科による増員を 行っている場合) 連携大学との役割分担（※1）	開始年度
No.1	東京大学、群馬大学、山梨大学、金沢大学、北海道大学、東北大学、慶応義塾大学、横浜市立大学、順天堂大学、新潟大学	年1回合宿形式でのリトリート開催による学生交流（発表、討論）や各大学の取り組み事例の紹介による自大学のシステム強化・改善などを行っている。	11校の連携大学のうち6校が研究医科増員を行っている。これらを含み輪番制でリトリート主幹を行っている。本校は第2回、6回、12回の主幹を務めた。	H22
No.2	東京大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、神戸大学、名古屋市立大学、群馬大学、横浜市立大学、順天堂大学、三重大学、山梨大学、滋賀大学、金沢大学	リトリート形式で開催される学生交流（発表、討論）と医学部間でのシステム情報共有を行っている。	本校は教員学生とも参加して研究発表・交流を行い、情報交換を行った。教員FDでは本校のシステムを発表することで情報を共有し、各大学の工夫・発展へ寄与した。	R5
No.3				

2. 特別コース（※）の設定

（※）「特別コース」とは、学部・大学院教育を一貫して見通した研究医養成のための重点的プログラムを指します。

① 特別コースの概要について、5～6程度で簡潔にご記入ください。その際、平成22年度～令和5年度に実施した取組で継続して行うもののほか、令和6年度に新たに行おうとする取組についてもご記入ください。

（選抜の時期、授業内容、特別コースに入ることで大学院進学が促進される仕組み（MD-PhD、単位の先行履修、論文認定、キャリア支援の取組など）（参考：記入例）

原則、1年次に「スカラシップ・アドバンスト特別コース」履修希望の聴取・選考を行う。コース履修者は、「スカラシップ・アドバンストプログラム」を履修し、配属された研究室で研究指導を受ける。また、令和2年度から新設した「インバティブ先端治療学・アドバンスト」によりイノベーション・イノベーションを涵養する。

更に、「スカラシップ・アドバンスト特別コース」履修者のうち、「スカラシップ・アドバンストプログラム」の単位修得者及び単位修得見込み者（研究を継続しており、卒業までに成果をあげ単位修得が可能と指導教員が認めた者）には、2年次以降に特定の大学院科目の先行履修を認め、卒業後の大学院進学時の授業受講の負担を軽減し、研究時間の確保を図ることとしている。

MD-PhDコースや▲年次での大学院進学を促すとともに、○年次に選抜を行い、「○○」という科目等を開講して～～を学んでいる。学部・大学院で一貫した研究を促すため、△△、□□を行っている。またキャリア支援として、～～を実施している。令和5年度からは、■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

② 研究医養成のための一貫した特別コースについて、以下をご記入ください。併せて、概要がわかる資料をご提出ください。

選抜の時期（※1）	コースの名称	年次	募集定員（※2）	大学院への進学時期（※3）	開始年度	備考
選抜入試						
○	スカラシップ・アドバンスト特別コース	1年次	なし	原則、卒業直後。ただし、臨床研修後の進学も可とする。	H25	
	その他（備考欄に詳細を記入）					

（※1）複数段階に分けて選抜を行っている場合には、該当する全てに○をご記入ください。

（※2）最低人数を定めている場合には、「○名以上」という形で記入ください。

（※3）特別コースの学生の大学院進学時期について全て記載ください。（例：5年次（MD-PhD）／卒業直後に進学／卒業、臨床研修後に進学／卒業、臨床研修と並行して進学）

③ 研究医養成のための選抜入試について、以下をご記入ください。

研究医養成のために特別な入試を実施しているか。	×
-------------------------	---

（「○」を選択した場合）以下をご記入するとともに、募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	募集人数		選抜方法（※1）	開始年度	備考
		うち臨時定員分				
合計		0	0			

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容

（※2）複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれ記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④ 研究医養成のための教育内容（正規科目）について、以下をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 （※1）	必修／選択の別		講義／実 習の別	単位数	開始年度
			研究医コ ース 学生	その 他の 学 生			
1～6年次	スカラーシップ・アドバンスプログラム	全員	必修	選択	実習	3	H21以前
3年次	イノベーション先端治療学・アドバンス	全員	必修	選択	講義	1	R2
4～6年次	大学院授業科目の先行履修	研究医コース学生	選択		講義	上限10単位	R2

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。（研究医コース学生の希望者のみの場合は、対象者を「研究医コース学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑤ 大学の正規科目以外で、研究医養成プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 （※1）	期間 （例：〇週）	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑥ 特別コースに関する取組のうち、以下の項目に関連するものについてご記入ください。なお、必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。
 (項目：専用の入試枠の設定による選抜の実施、学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置、学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築、臨床研修により研究活動が中断されることのないようするための配慮、研究医となった際の常勤ポストの確保、海外での研修の機会 (1か月以上))

(項目)	概要 (1～2行程度)	開始年度
学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置	「千葉大みらい医療基金」において、「スカラシップ研究助成金制度」を創設し、助成を希望する「スカラシップ・アドバンスト特別コース」受講者が研究を継続するための研究費を支援している。	R4
学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築	「スカラシップ・アドバンストプログラム」の受講が教員からの研究・論文作成の指導となっている。研究発表の場として、本学部では毎年「ちばBasic & Clinical Research Conference (ちばBCRC)」を主催して	H21以前
臨床研修により研究活動が中断されることのないようするための配慮	学部2年次以降に「大学院博士課程の授業科目の先行履修」を認め、大学院進学後に単位認定することにより、臨床研修中の受講の負担を軽減し、研究活動に従事する時間の確保を図る。	R2
臨床研修により研究活動が中断されることのないようするための配慮	「研究指向型大学院博士課程プログラム (基礎研究医プログラム)」制度を開始し、初期臨床研修期間と並行して大学院進学を可能とすることで、医学部在籍時からの研究継続性を担保する。	R4
研究医となった際の常勤ポストの確保	医学部卒業後に大学院博士課程に進学し一定の業績を挙げた場合は、平成24年度から本学大学院医学研究科で設定した「先端研究リサーチフェロー (Medical Research Fellow) 制度」を用いて優秀な若手研究者を特任教員として採用し、研究の支援をする体制を構築している。	H24
海外での研修の機会 (1か月以上)	希望者に海外への留学の機会を提供している。令和2年度入学者より学生自ら企画発案し実施する「アスパイア・プロジェクト」をスタートし、研究医枠の学生には本プロジェクト内でも国内外で自らの研究を進展させることを勧奨している。	H21以前

※該当がない場合は、何も記入せずにそのまま提出ください。

⑦ **上記②～⑥以外に**、研究医養成の特別コースに関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。
 (令和5年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要 (1～2行程度)	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのまま提出ください。

⑧特別コースの履修者の確保状況について、以下をご記入ください。

	R3	R4	R5	直近3年間の平均
人数(名)	5	11	未定	8

※当該年度の新規履修者のみを計上してください。

3. 奨学金の設定

① 卒後一定期間の研究医としての従事を要件とする奨学金の設定について、以下をご記入ください。
 複数の奨学金を設定している場合には、それぞれについてご記入ください。

名称	設定主体 (例：大学、○○財団)	給付/貸与 の別	支給対象	募集人数	選抜の有無	支給期間 (例：大学院1～3年次 (3年間))
No.1 千葉大学医学部研究医養成 修学資金	大学	貸与	その他(備考欄に記入)	2	有	学部1～6年次(6年間)
No.2						
No.3						

(続き)

	支給額(例：200,000)		返還免除要件	開始年度	備考
	月額	総支給額			
No.1	50,000	3,600,000	医学部卒業後、大学院に進学し、大学院を修了後、海外留学期間等を含む2年間、大学等の研究機関において研究医として研究に従事した場合、その返還を免除する。	H25	支給対象：特別コース履修者のうち、研究医枠に選抜された学生
No.2					
No.3					

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

(2) 研究医養成拠点として相応しい実績

①-1. 継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(入学年度)	R3	R4	R5	直近3年間の平均
基礎・社会系大学院進学者数 (【A】)	26	30	33	29.666666667
臨床系大学院進学者数 (【B】)	92	94	127	104.333333333

(博士課程修了年度)	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【A】の修了者数 (【C】)	13	22	21	18.666666667
【B】のうち、基礎・社会学系の論文 (又は共著論文) を執筆した修了者数 (【D】)	39	36	45	40
合計	52	58	66	58.666666667

①-2. その他、継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

②-1. 継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

(博士課程修了年度)	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【C】【D】のうち、基礎・社会学分野の就職者数	3	11	6	6.666666667
【C】【D】のうち、臨床系に就職した基礎・社会学研究に従事する者等の数 (※1)	12	14	19	15
合計	15	25	25	21.666666667

(※1) 一度臨床系 (基礎系以外) に進んだものの実態としては研究に従事している又は従事する見込みがある者の数。

(例) 臨床医として働きながら研究活動を行っている者、常勤ポストではないが大学の身分を有し研究活動を行っている者、現在臨床医として勤務しているが将来的に研究に従事する意思を大学が確認している者)

②-2. その他、継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。(1~3行程度)

③ 大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等
 ※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

採択事業名	採択年度 (○)年度 ～(●)年	概要 (1～3行程度)
文部科学省 博士課程教育 リーディングプログラム「免疫シ ステム調節治療学推進リー ダー養成プログラム」	2012年度 ～2018年 度	難治性の免疫関連疾患に特化した「治療学」の推進 リーダーを養成するプログラム
文部科学省 未来医療研究 人材養成拠点形成事業「未 来医療を担う治療学CHI B A人材養成」	2013年度 ～2017年 度	「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院まで の一貫的教育システムを導入し、将来の医療イノベ ーションを担う人材を輩出する
文部科学省 基礎研究医養 成活性化プログラム「病理・法 医学教育イノベーション」の 構築」	2017年度 ～2021年 度	千葉・群馬・山梨の三大学連携で病理・法医学研究 医育成の教育プラットフォームを整備し、同領域の医師 不足解消を目指す
文部科学省 卓越大学院ブ ログラム「革新医療創生 CHIBA卓越大学院」	2019年度 ～2025年 度	医学、薬学、理学、工学などの9専攻の修士課程と4年 博士課程を一貫した6年制プログラムの中で「クラスター 制CHIBA教育システム」を構築し、『知のプロフェッショ ナル』を養成することを目指す

④ 他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績 (科学研究費採択率等)
 ※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

概要 (1～3行程度)
千葉大学は総合大学として広い領域での研究が進められている。大学全体での科研 費新規採択件数では、全国第14位である。中区分「病理病態学、感染・免疫学およ びその関連分野」においては全国で第9位、「恒常性維持器官の外科科学およびその関 連分野」では第5位である。

(3) 過去に研究医枠による入学定員増を実施した場合の令和5年度における状況

① 過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等ともにご記入ください。
 (例：第三者による評価、学内委員会による評価)

日本医学教育評価機構の評価報告書の特記すべき良い点 (特色) において、「スカ ラシッププログラムにより、早い時期から研究に触れる機会が学生に与えられていること は評価できる」と高い評価を受けている。
--

令和5年度
千葉大学
一般選抜
学生募集要項

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして

令和4年10月

2. 募集人員

学 部	学 科 ・ 課 程	入学定員		募 集 人 員					
				一 般 選 抜		特 別 選 抜			
				前期日程	後期日程	総合型 選抜	学校推薦型 選抜	園芸産業 創発学 プログラム選 抜	社会人 選抜
国際教養 学部	国際教養学科	90	83	-	7	-	-	-	
文学部	人文学科	170	125	18	3	24	-	若干名	
法政経 学部	法政経学科	370	295	70	5	-	-	-	
教育学部	学校教員養成課程	390	298	-	92	-	-	-	
理学部	数学・情報数理学科	44	29	15	-	-	-	-	
	物理学科	39	23	12	4	-	-	-	
	化学科	39	31	8	-	-	-	-	
	生物学科	39	29	10	-	-	-	-	
	地球科学科	39	30	5	4	-	-	-	
	計	200	142	50	8	-	-	-	
工学部	総合工学科	620	456	124	40	-	-	-	
園芸学部	園芸学科	64	44	9	5	-	6	-	
	応用生命化学科	31	20	7	4	-	-	-	
	緑地環境学科	66	40	17	9	-	-	-	
	食料資源経済学科	29	17	8	-	-	4	-	
	計	190	121	41	18	-	10	-	
医学部	医学科※	117	102	15	-	-	-	-	
薬学部	薬学科	(50)	90	-	-	10	-	-	
	薬科学科	(40)		10					
看護学部	看護学科	80	49	-	-	24	-	7	
合 計		2,317	1,741	328	173	58	10	7	

※医学部医学科の募集人員には、千葉県地域枠入試の募集人員を含みます。詳しくは7ページを参照してください。
上記の他に、先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜の募集があります。

8. 医学部

医学部における一般選抜の募集人員は次のとおりです。

学科	入試枠	前期日程	後期日程
医学科	一般枠入試	82名	15名
	千葉県地域枠入試	20名	—

【千葉県地域枠入試及び千葉県医師修学資金貸付制度について】

目的	<p>医学部医学科の千葉県地域枠入試は、地域における医師不足や地域偏在を解消するため、千葉県と連携し、将来の千葉県内の地域医療を担う者を育成することを目的としています。千葉県地域枠入試に合格し、本学で修学する者には、千葉県が運営する千葉県医師修学資金貸付制度による修学資金を貸付けます。</p>
制度概要	<ul style="list-style-type: none"> 修学資金の貸付額（令和4年度実績） 月額15万円（6年間合計 1,080万円） ※以下は予定であり、変更となる場合があります。 修学資金の貸与期間 令和5年4月から正規の修学期間を修了する月まで 修学資金の返還 次のいずれかに該当する事由が生じたときは、当該事由が生じた日の属する月の翌月の末日までに、借り受けた修学資金に利息を付した額を一括で返還しなければなりません。 ア 貸付期間が満了したとき。（返還免除要件を満たす見込みである場合は除く。） イ 修学資金の貸付けの決定が取り消されたとき。 ウ 千葉県知事が定める病院での勤務による返還の免除を受ける前に、死亡したとき。 エ 千葉県知事が定める病院での勤務による返還の免除を受けることができないと確定したとき。 修学資金の返還免除 大学を卒業した日の属する月の翌月の初日から起算して1年3か月以内に医師の免許を取得し、千葉県が指定する期間内に修学資金の貸付期間の1.5倍に相当する期間、所定の医療機関に勤務したとき、修学資金の返還を免除します。 また、修学資金の借受人が、死亡し、又は災害、病気その他やむを得ない事由により、修学資金の返還ができなくなったときは、修学資金の返還及びその利息の支払の責務の全部又は一部を免除することがあります。 ※千葉県地域枠入試により選抜された学生については、在学中はキャリア形成卒前支援プランの、卒業後はキャリア形成プログラム（修学資金の返還免除に必要な勤務の条件を示したもの）の対象となります。詳細については、千葉県ホームページに掲載される「令和5年度千葉県医師修学資金募集要項（長期支援コース（地域枠）」をご覧ください。 (https://www.pref.chiba.lg.jp/iryuu/ishi/ishikakuho/gakusei/kashitsuke.html)
入学辞退	<p>千葉県地域枠入試の出願要件は、「本学に入学する意志を有し、合格した際に入学を確約できる者」であり、合格者はいかなる理由があっても入学を辞退できません。</p>
留意事項	<p>千葉県地域枠入試により入学した場合、地域医療関連科目が必修となることにより、一般枠入試の場合よりも卒業に必要な単位数が増えます。</p>

9. 薬学部

薬学部は、薬学科（6年制：50名）と薬科学科（4年制：40名）で構成されています。

前期日程については、学科を決めずに一括募集し、学科への配属（薬学科40名、薬科学科30名）は3年次進級時に本人の希望・学業成績により決定します。

後期日程については、薬科学科（4年制）のみで募集します。

学校推薦型選抜については、薬学科（6年制）のみで募集します。

※薬剤師国家試験の受験資格は、薬学科（6年制）の卒業生に与えられます。

3. 出願資格

(1) 出願資格

令和5年1月実施の令和5年度大学入学者選抜大学入学共通テストで各学部・学科・課程・コース・分野が指定する教科・科目を受験した者で、大学入学資格を有するもの又は令和5年3月までに有する見込みのもの

「大学入学資格を有する（令和5年3月までに有する見込みのもの）」の主な例は、次のとおりです。

- ① 高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ。）を卒業した（見込みの）者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した（見込みの）者※
※特別支援学校の高等部又は高等専門学校3年次を修了した（見込みの）者が該当します。
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した（見込みの）者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した（見込みの）者
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した（見込みの）者
- ⑥ 文部科学大臣の指定した者
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した（見込みの）者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- ⑧ 学校教育法第九十条第二項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則による高等学校卒業程度認定審査に合格したもの
- ⑨ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和5年3月までに18歳に達するもの

※他の大学の認定をもって大学入学共通テストに出願した後、本学へ志望変更を行うため、⑨の個別の入学資格審査を受けようとする者は、学務部入試課入試係（電話 043-290-2183）へ資格審査の申請方法等を確認の上、11月17日（木）までに本学へ資格審査の申請を行ってください。

(2) 出願要件（医学部医学科千葉県地域枠入試の志願者のみ）

医学部医学科の千葉県地域枠入試に出願できる者は、「(1) 出願資格」に加え、次の①～③の出願要件をすべて満たす者とします。

- ① 本学に入学する意志を有し、合格した際に入学を確約できる者
- ② 出願時に千葉県医師修学資金の貸与申請を行い、修学資金を借り受ける者
- ③ 将来、医師として千葉県知事が定める医師不足地域等の医療機関に千葉県医師修学資金の貸付期間の1.5倍に相当する期間、従事しようとする強い意志がある者

(3) 出願の際の留意事項等

ア 一般選抜に出願する場合、国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。）のうち、前期日程の試験を実施する大学・学部から1つ、後期日程の試験を実施する大学・学部から1つ出願することができます。国公立大学・学部の前期日程を複数出願したり、後期日程を複数出願したりすることはできません。

※独自日程で入学者選抜試験を行っている公立大学・学部については、公立大学協会のホームページを参照してください。（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）

イ 前期日程で本学の学部・学科等に出願し、後期日程も本学の学部・学科等に出願する（併願する）ことは可能です。

なお、上記の場合（同一学部・同一学科等に出願する場合も含む）、前期日程、後期日程とも、それぞれの出願書類を志望する学部・学科等に提出する必要があります。

ウ 本学及び他の国公立大学で実施する学校推薦型選抜、総合型選抜※に合格した者は、当該大学の定める入学辞退手続により入学を辞退した場合を除いて、本学が行う一般選抜を受験しても合格者とはなりません。

※本学においては、園芸産業創発学プログラム選抜も総合型選抜に含みます。

5. 入学者選抜

(1) 選抜方法等

ア 選抜方法

入学者の選抜は、令和5年度大学入学共通テストの成績、個別学力検査等の結果及び調査書の内容を総合して行います。(過年度の大学入学共通テストの成績は利用しません。)

合格者の決定は、総合得点により行います。

なお、同点者の順位決定については、文学部、法政経学部、工学部、医学部及び薬学部においては、本学の個別学力検査等の得点が上位の者を優先します。

また、合否判定基準を別に定めている学部があります。(イ参照)

イ 合否判定基準

教育学部、工学部、医学部、看護学部

個別学力検査等の得点が当該学部・学科等受験者の平均点に満たない教科・科目等があった場合には、不合格とすることがあります。

ウ 2段階選抜の実施及び第1段階選抜実施の発表

第1段階選抜の予告倍率を掲げる次の学部・学科では、志願者数が募集人員に対する予告倍率を超えた場合に、2段階選抜(各学部・学科が指定する大学入学共通テストの教科・科目の成績(素点)の総得点により第1段階選抜を行い、その合格者についてのみ個別学力検査等を行う。)を実施することがあります。ただし、予告倍率を緩和する場合があります。

学部・学科		第1段階選抜の予告倍率		
		前期日程	後期日程	
法政経学部	法政経学科	3.5倍	13倍	
医学部	医学科	【一般枠入試】	3倍	7倍
		【千葉県地域枠入試】	3倍	—

第1段階選抜の実施については、次の(ア)～(ウ)により発表します。

(ア) 第1段階選抜実施の有無の掲載日時 前期日程…令和5年2月9日(木)10時(予定)
後期日程…令和5年3月1日(水)13時(予定)

(イ) 第1段階選抜を実施した場合は、その旨を(ア)の日時に千葉大学ホームページに掲載します(個別に合格者の掲載は行いません。)。合格者は出願サイトから受験票をダウンロードしてください。不合格者は受験票のダウンロードはできません。

(注) 第1段階選抜の不合格者には、令和5年3月31日(金)17時までに本人が所定の手続を行った場合に、検定料の一部(13,000円)を返還します。返還手続の詳細については、出願サイトの申し込み一覧画面から検定料返還請求書をダウンロードして確認してください。

(ウ) 第1段階選抜を実施しなかった場合は、その旨を(ア)の日時に千葉大学ホームページに掲載します。この場合、第1段階選抜を実施しなかった学部・学科の志願者全員に受験票が発行されますので、出願サイトから受験票をダウンロードしてください。

(前期日程)

日程	学部	学科・課程・コース・分野	個別学力検査等（前期日程） の出題教科・科目等	特記事項
前 期	園 芸 学 部	園芸学科 応用生命化学科 緑地環境学科	数（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B）	数Bの出題範囲については、26ページを参照のこと。
			理（物基・物，化基・化，生基・生 から2）	理科は定規を使用する問題が出題されることがあるので、15cm 程度の直定規又は三角定規を一本持参すること。
			外（コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ）	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成 績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、36～38ペー ジを参照のこと。
	食 料 資 源 経 済 学 科	食料資源経済学科	数（数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B）	数Bの出題範囲については、26ページを参照のこと。
			外（コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ）	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成 績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、36～38ペー ジを参照のこと。
	医 学 部	医学科 【一般枠入試】 【千葉県地域枠入試】	数（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B）	数Bの出題範囲については、26ページを参照のこと。
			理（物基・物，化基・化，生基・生 から2）	理科は定規を使用する問題が出題されることがあるので、15cm 程度の直定規又は三角定規を一本持参すること。
			外（コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ）	
			面接	
	薬 学 部	薬学科 薬科学科 （一括募集）	数（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B）	数Bの出題範囲については、26ページを参照のこと。
			理（化基・化） （物基・物，生基・生から1）	理科は定規を使用する問題が出題されることがあるので、15cm 程度の直定規又は三角定規を一本持参すること。
			外（コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ）	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成 績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、36～38ペー ジを参照のこと。
看 護 学 部	看護学科	理（物基・物，化基・化，生基・生 から2）	理科は定規を使用する問題が出題されることがあるので、15cm 程度の直定規又は三角定規を一本持参すること。	
		外（コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ）	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成 績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、36～38ペー ジを参照のこと。	
		面接		

(4) 大学入学共通テスト及び個別学力検査等の配点

(7) 前期日程

学部・学科・課程・コース・分野		試験の区分及び教科・科目等		大学入学共通テスト							個別学力検査等							合計					
				国語	地理歴史	公民	数学	理科	外国語	計	国語	数学	地理歴史	理科	専門適性検査	外国語	面接		その他	計			
国際教養学部	国際教養学科	100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	国語(300)又は理科(300)を選択 数学(300)又は地理歴史(300)選択				300			900	1,350				
文学部	人文学科	行動科学コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200	150			200			550	1,000		
		歴史学コース		100	50	50	50	50	50	100	450	200		200			200			600	1,050		
		日本・ユーラシア文化コース		100	50	50	50	50	50	100	450	300		300			300			900	1,350		
		国際言語文化学コース		100	50	50	50	50	50	100	450	200		150			200			550	1,000		
法政経学部	法政経学科	100	50	50	50	50	50	100	450	300	300				300			900	1,350				
教育学部	学校教育員養成課程	小学校コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300			200	200		1,000	1,450		
		中学校コース	国語科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	200			300	200		1,000	1,450	
			社会科教育分野		50	100	100	25	25	100	50	450	300	200			300	200		1,000	1,450		
			数学科教育分野		100	50		50	50	50	50	100	450		500		100	200	200		1,000	1,450	
			理科教育分野		100	50		50	50	50	50	100	450		200		200	200	200		1,000	1,450	
		技術科教育分野		100	50		50	50	50	50	100	450		200		150	500	150		1,000	1,450		
		小中専門教科コース	音楽科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	150				200	150		500	1,000	1,450
			図画工作・美術科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200				200	200		400	1,000	1,450
			保健体育科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200				200	200		400	1,000	1,450
			家庭科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300			200	200		1,000	1,450	
		英語教育コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300				200	300		200	1,000	1,450	
		特別支援教育コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300				200	200		1,000	1,450	
		乳幼児教育コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300			200	200		1,000	1,450		
養護教諭コース		100	50		50	50	50	50	100	450				300		300	100	300	1,000	1,450			
理学部	数学・情報数理学科		100	50		50	50	50	100	450		600		150		150			900	1,350			
	物理学科		100	50		50	50	50	100	450		300		物理300 化学100		200			900	1,350			
	化学科		100	50		50	50	50	100	450		250		化学300 物理生物地学150		200			900	1,350			
	生物学科		100	50		50	50	50	100	450		150		生物350 物理化学200		200			900	1,350			
	地球科学科		100	50		50	50	50	100	450		250		200	200	250			900	1,350			
工学部	総合工学科	建築学コース 機械工学コース 電気電子工学コース 情報工学コース		100	50		50	50	50	100	450		300		物理200 化学100		300			900	1,350		
		都市工学コース デザインコース 医工学コース 物質科学コース 共生応用化学コース		100	50		50	50	50	100	450		300		150	150		300			900	1,350	
園芸学部	園芸学科 応用生命化学科 緑地環境学科		100	50		50	50	50	100	450		300		150	150		300			900	1,350		
	食料資源経済学科		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450		450				450			900	1,350		
医学部	医学科 【一般枠入試】 【千葉県地域枠入試】		100	50		50	50	50	100	450		300		150	150		300	100		1,000	1,450		
薬学部	薬学科, 薬科学科(一括募集)		100	50		50	50	50	100	450		300		150	150		300			900	1,350		
看護学部	看護学科		100	50		50	50	50	100	450				250	250		300	100		900	1,350		

※教育学部の「その他」については、次頁の注意事項を参照

学部・学科等		令和5年2月25日(土)									
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
理学部	数学・情報数理学科		理科 9:50～ 10:40			数学 12:10～15:10					
	物理学科 化学科 生物学科		理科② 9:00～11:30			数学 13:10～15:10			外国語 16:10～17:30		
	地球科学科		理科② 9:50～11:30								
工学部	総合工学科 建築学コース 機械工学コース 電気電子工学コース 情報工学コース		理科② 9:20～11:30			数学 13:10～15:10			外国語 16:10～17:30		
	都市工学コース デザインコース 医工学コース 物質科学コース 共生応用化学コース		理科② 9:50～11:30								
園芸学部	園芸学科 応用生命化学科 緑地環境学科		理科② 9:50～11:30			数学 13:10～15:10			外国語 16:10～17:30		
	食料資源経済学科					数学 13:50～15:10					
医学部	医学科 【一般枠入試】 【千葉県地域枠入試】	面接 (資料作成) 8:30～ 9:10	理科② 9:50～11:30			数学 13:10～15:10			外国語 16:10～17:30		
薬学部	薬学科 薬科学科 (一括募集)		理科② 9:50～11:30			数学 13:10～15:10			外国語 16:10～17:30		
看護学部	看護学科		理科② 9:50～11:30			面接 (資料作成) 13:30～ 14:10			外国語 16:10～17:30		

(注) 時間割中の「理科②」は、理科2科目受験を表します。検査時間が100分の場合は、1科目50分相当の問題が出題されます。なお、以下の学部・学科で想定している科目別の検査時間は次のとおりとなります。

- ・理学部物理学科においては、物理100分相当、化学50分相当の問題を出題
- ・理学部化学科においては、化学100分相当、その他の科目50分相当の問題を出題
- ・理学部生物学科においては、生物100分相当、物理又は化学50分相当の問題を出題
- ・工学部総合工学科建築学コース、機械工学コース、電気電子工学コース、情報工学コースにおいては、物理80分相当、化学50分相当の問題を出題

学部・学科等		令和5年2月26日(日)										
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
教育学部	学校教員養成課程	小学校コース	面接 9:00～									
		中学校コース 国語科, 社会科, 数学科, 理科 の各教育分野							専門適性検査 14:00～			
		中学校コース 技術科教育分野							専門適性検査 14:00～16:00			
		小中専門教科コース 音楽科教育, 図画工作・美術科教育, 保健体育科教育 の各分野	実技・専門適性検査 9:00～									
		小中専門教科コース 家庭科教育分野	専門適性検査 9:00～									
		英語教育コース	ライティング・専門適性検査 9:00～									
		特別支援教育コース	面接 9:00～									
		乳幼児教育コース	専門適性検査 9:00～									
		養護教諭コース	面接 9:00～									
医学部	医学科 【一般枠入試】 【千葉県地域枠入試】	面接 9:00～										
看護学部	看護学科					面接 9:30～						

(注) 教育学部学校教員養成課程英語教育コースのライティングは試験時間50分で実施します。

7. 合格者発表等

(1) 合格者発表

入学者選抜の結果については、下記の日時に合格者の受験番号を千葉大学ホームページに掲載します。
(<https://www.chiba-u.ac.jp/>) 各学部の掲示板及び出願サイトでの発表は行いません。また、電話等による問い合わせには応じません。

前期日程……令和5年3月9日(木)13時(予定)から3月10日(金)17時まで

後期日程……令和5年3月21日(火)13時(予定)から3月23日(木)17時まで

追試験……令和5年3月26日(日)13時(予定)から3月30日(木)17時まで

(2) 合格通知書及び関係書類の送付

合格者には、合格者発表後速やかに合格通知書及び関係書類を、出願サイトで登録した「住所・連絡先」あてにレターパック等で送付します(直接交付はしません。)ので、確実に受け取れるようにしてください。

なお、合格者であるにもかかわらず上記書類が届かない場合は、志望学部の担当係等へ問い合わせてください。(不合格者への通知は行いません。)

(3) 追加合格

合格者のうち、3月14日(火)・15日(水)(前期日程入学手続日)及び3月26日(日)(後期日程入学手続日)に入学手続を行わない者が出たことにより、募集人員(入学定員)に欠員が生じた場合は、3月28日(火)以降、追加合格を行うことがあります。

追加合格候補者には、当該学部から出願サイトで登録した本人の連絡先に電話をし、直接本人に入学の意思を確認しますので、連絡の取れる状態にしておいてください。(本人が不在の場合には、保護者の方を通じて連絡の取れる状態にしておいてください。)

(注) 1 追加合格候補者は発表しません。また、追加合格者決定についての電話等による問い合わせには応じません。

2 追加合格候補者に入学の意思がある場合には、入学の意思を確認した際に入学手続の方法などをお知らせしますので、別途指定する期間内に入学手続を行ってください。

8. 入学手続

(1) 入学手続日時及び場所

合格者は、下記の日時に本学へ直接出向いて入学手続を行ってください。

やむを得ない事情により来学できない場合は、合格した学部の担当係等に連絡をし、その指示に従ってください。

なお、入学手続を行わないと入学を辞退したものと見なしますので十分注意してください。

前期日程……令和5年3月14日(火)・15日(水) 9時から11時30分、13時から16時まで

後期日程……令和5年3月26日(日) 9時から11時30分、13時から16時まで

※追加合格者の入学手続日は、追加合格を連絡する際に指定します。また、千葉大学一般選抜(前期日程・後期日程)追試験合格者の入学手続日についても、別途連絡します。

(注) 1 入学手続には、令和5年度の「大学入学共通テスト受験票」及び「千葉大学受験票(又は合格通知書)」の提示が必要ですので、大切に保管してください。

2 国公立大学の所定の入学手続を完了した者は、他の国公立大学に入学手続を行うことはできません。特に、本学の前期日程試験に合格し、上記期日までに入学手続を行った者は、後期日程試験を受験しても、その合格者とはなりませんので注意してください。

(2) 入学手続きの際に納入する経費

入学手続きの際には、次の経費が必要です。

学 部	入 学 料	学生教育研究災害傷害保険料 (学研災付帯賠償責任保険含む)	合 計
国 際 教 養 学 部 文 学 部 法 政 経 学 部 教 育 学 部 理 学 部 工 学 部 園 芸 学 部	282,000 円	4 年分 4,660 円	286,660 円
薬 学 部		4 年分 4,730 円	286,730 円
看 護 学 部		4 年分 5,370 円	287,370 円
医 学 部		6 年分 7,800 円	289,800 円

- (注) 1 入学料については、入学手続き時に納入してください。
- 2 授業料については、入学年度の前期分授業料は5月(2年目以降は4月となります。)に、後期分授業料は10月に、それぞれ口座振替により納入願います。口座振替手続等の詳細は、合格通知書に同封の関係書類により(又は入学手続きの際に)改めてお知らせします。
なお、前期分・後期分授業料は、それぞれ321,480円(年額642,960円)です。
- 3 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。
- 4 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- 5 入学料及び授業料が減免される制度があります。詳しくは、千葉大学ホームページ(<https://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/payment/exemption.html>)をご覧ください。か、学務部学生支援課 生活支援係(電話043-290-2178)へ問い合わせてください。
- 6 学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料は、3月31日(金)までに郵便局又はゆうちょ銀行で払い込んでください。
※薬学部薬学科(6年制)へ所属することとなる学生については、5年次進級時に、残り2年分の学生教育研究災害傷害保険料の納入について連絡します。
※当該保険について
正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。なお、保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。詳しくは、学務部学生支援課 課外活動支援係(電話043-290-2162)へ問い合わせてください。
- 7 入学手続き完了者が3月31日(金)17時までに入学を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生教育研究災害傷害保険料を返還します。



(3) 学生寮の入寮申請について

千葉大学の学生寮への入寮を希望される場合は、1月中旬に千葉大学ホームページ(※)に詳細を掲載する予定ですので、そちらをご覧ください。なお、薫風寮については2月下旬(一般選抜の合格者発表前)に申請が締め切られますので、ご留意ください。詳しくは、学務部学生支援課 生活支援係(電話043-290-2169)へ問い合わせてください。

(※ <https://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/facilities/dormitory.html>)



9. 千葉大学一般選抜（前期日程，後期日程）追試験について

千葉大学では、新型コロナウイルス感染症に罹患した入学志願者の受験機会を確保するため、令和5年度一般選抜（前期日程，後期日程）に限り、追試験を実施します。

(1) 追試験の対象者

令和5年度千葉大学一般選抜（前期日程，後期日程）に出願手続を完了した者のうち、以下の理由により個別学力検査等を受験できない者

- ・新型コロナウイルス感染症の罹患が判明した者で、個別学力検査当日まで療養中の者
- ・個別学力検査前日または当日に息苦しさ、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがあり、医療機関を受診した者

千葉大学一般選抜の追試験は前期日程，後期日程のいずれか一つのみ受験が可能です。なお、国公立大学の前期日程及び後期日程いずれも追試験対象となった者については、次のとおり取り扱います。

- ①前期・後期いずれも本学に出願し、前期の追試験受験申請が認められたのち、後期も追試験対象となった者については、前期・後期の志願学部・学科等の別にかかわらず、千葉大学一般選抜（前期日程）の追試験対象者とし、後期の追試験申請は受け付けません。
- ②前期は本学に、後期は他大学に出願し、前期の追試験受験申請が認められたのち、後期も追試験対象となった者については、千葉大学一般選抜（前期日程）の追試験対象者としませんが、本学の追試験を受験しない場合は、その旨を検査前日までに学務部入試課（電話 043-290-2182）に連絡してください。
- ③前期は他大学に、後期は本学に出願し、前期の追試験受験申請が認められたのち、後期も追試験対象となった者については、千葉大学一般選抜（後期日程）の追試験受験申請を受け付けますが、後期の追試験受験申請が認められたのち、本学の追試験を受験しない場合は、その旨を検査前日までに学務部入試課（電話 043-290-2182）に連絡してください。

(2) 申請受付期間 前期日程…令和5年2月22日（水）9:00～2月25日（土）17:30

後期日程…令和5年3月9日（木）9:00～3月12日（日）17:30

(3) 申請方法

追試験の受験を希望する者は、上記の申請受付期間内に、次の必要書類を試験実施本部（学務部入試課）に提出してください。やむを得ない事情により上記期間内に書類を提出できない場合は、上記期間内に試験実施本部（学務部入試課 電話 043-290-2182）へ連絡してください。

- ①令和5年度千葉大学受験票
- ②追試験受験申請書（様式は2月上旬以降本学ホームページからダウンロードすること）
- ③医師の診断書等で、治療期間や自宅待機期間が明記されたもの

(4) 検査実施日 令和5年3月22日（水）（前期日程，後期日程とも同日実施）

※申請者数等により、一部の学部では検査を2日間にわたって行う場合があります。

(5) 出題教科・科目

本検査に準じます。ただし、専門適性検査等で一部実施しない科目等があります。時間割、受験上の注意事項については、追試験受験申請者に別途連絡します。学力検査場は、いずれの学部も西千葉地区（54，55ページ①）を予定しています。

(6) 合格者発表

令和5年3月26日（日）13時に、合格者の受験番号を千葉大学ホームページ(<https://www.chiba-u.ac.jp/>)に掲載します。（各学部の掲示板及び出願サイトでの発表は行いません。）

合格者には、合格通知書及び関係書類を送付するとともに、入学の意思確認を行います。追試験の合格者は、志望学部の担当係等へ電話連絡してください。

(7) 入学手続 令和5年3月26日（日）～3月30日（木）の期間内で、志望学部が指定する日時

なお、国公立大学の前期日程試験に合格し、期日までに入学手続を行った者は、後期日程の追試験を受験してもその合格者とはなりませんので、注意してください。

(8) その他

個別学力検査等の実施日が2日間にわたる学部において、1日目、又は2日目のみの追試験申請はできません。また、追試験についての追試験はありません。申請様式及び申請に係る詳細は、千葉大学ホームページの〈入試案内〉(<https://www.chiba-u.ac.jp/exam/index.html>)にて2月上旬頃にお知らせします。

令和6年度

入学者選抜要項

令和5年7月

千葉大学



CHIBA UNIVERSITY

2. 入学者選抜日程の概要

※ 日程については変更がありえますので、必ず募集要項等で確認してください。

試験	日程	受験案内発表	出願期間	実施期日
大学入学共通テスト		9月から同試験利用大学で配布	9月25日(月)～10月5日(木)	1月13日(土)～14日(日) 同試験利用大学で実施

(1) 一般選抜

選抜	日程	要項発表	出願期間	選抜期日	合格者発表等	入学手続 締切日
一般選抜 (前期日程)	国際教養学部	10月下旬	1月22日(月) ～2月2日(金)	国際教養学部, 文学部, 法政経学部, 理学部, 工学部, 情報・データサイ エンス学部, 園芸学部, 薬学部 2月25日(日)	第1段階選抜 実施結果発表 2月8日(木)	3月15日(金)
	文学部					
	法政経学部					
	教育学部					
	理学部					
	工学部					
	情報・データ サイエンス学部					
	園芸学部					
	医学部					
	薬学部					
看護学部						
一般選抜 (後期日程)	文学部	10月下旬	1月22日(月) ～2月2日(金)	文学部, 法政経学部, 理学部, 工学部, 園芸学部, 薬学部 3月12日(火)	第1段階選抜 実施結果発表 2月29日(木)	3月26日(火)
	法政経学部					
	理学部					
	工学部					
	園芸学部					
	医学部					
	薬学部					

(2) 特別選抜

選抜	日程	要項発表	出願期間	選抜期日	合格者発表	入学手続 締切日		
総合型選抜	国際教養学部	7月下旬	9月11日(月) ～13日(水)	10月28日(土) ～29日(日)	合格内定者: 12月1日(金) 最終合格者: 2月8日(木)	2月15日(木)		
	文学部	7月下旬	10月2日(月) ～4日(水)	11月18日(土)	合格内定者: 12月15日(金) 最終合格者: 2月8日(木)	2月15日(木)		
	法政経学部	7月下旬	10月23日(月) ～25日(水)	11月18日(土)	合格内定者: 12月13日(水) 最終合格者: 2月8日(木)	2月15日(木)		
	教育学部	方式Ⅰ	6月下旬	9月1日(金) ～5日(火)	9月23日(土) ～24日(日)	合格内定者: 11月1日(水) 最終合格者: 2月8日(木)	2月15日(木)	
		方式Ⅱ			9月23日(土)	11月1日(水)		
	理学部	7月下旬	9月25日(月) ～28日(木)	10月2日(月) ～11日(水) 11月11日(土)	第1次選抜合格者: 10月20日(金) 第2次選抜合格者: 11月11日(土) 最終合格者: 11月24日(金)	2月15日(木)		
	工学部 総合工 工学科	デザインコース	6月下旬	9月25日(月) ～28日(木)	10月21日(土) ～22日(日)	第1次選抜合格者: 10月22日(日) 第2次選抜合格者: 11月10日(金) 最終合格者: 2月8日(木)	2月15日(木)	
		情報工学コース※			10月4日(水) ～6日(金)	第1次選抜合格者: 10月13日(金)		
					物質 科学 コース	10月21日(土)		第2次選抜合格者: 11月10日(金) 最終合格者: 2月8日(木)
						方式Ⅱ		10月21日(土)
情報・データサイエンス学部	令和6年度選抜に限り、「工学部総合工学科(情報工学コース)総合型選抜」により選抜を実施しますので、志願者は工学部に出願してください。当該選抜における最終合格者を、情報・データサイエンス学部の合格者として取扱います。詳細は、41ページを参照してください。							
園芸学部	6月中旬	10月10日(火) ～12日(木)	10月13日(金) ～18日(水) 11月12日(日)	第1次選抜合格者: 10月27日(金) 第2次選抜合格者: 12月1日(金) 最終合格者: 2月8日(木)	2月15日(木)			

※工学部総合工学科(情報工学コース)総合型選抜における最終合格者は、情報・データサイエンス学部の総合型選抜の合格者として取扱います。

3. 募集人員

学部	学科・課程	入学定員		募 集 人 員				
				一 般 選 抜		特 別 選 抜		
				前期日程	後期日程	総合型 選抜	学校推薦型 選抜	園芸産業 創発学 プログラム選 抜
国際教養学部	国際教養学科	90	83	-	7	-	-	-
文学部	人文学科	170	125	18	3	24	-	若干名
法政経学部	法政経学科	360	290	65	5	-	-	-
教育学部	学校教員養成課程	380	287	-	93	-	-	-
理学部	数学・情報数理学科	44	29	15	-	-	-	-
	物理学科	39	23	12	4	-	-	-
	化学科	39	31	8	-	-	-	-
	生物学科	39	29	10	-	-	-	-
	地球科学科	39	30	5	4	-	-	-
	計	200	142	50	8	-	-	-
工学部	総合工学科	540	407	104	29	-	-	-
情報・データサイエンス学部	情報・データサイエンス学科	100	90	-	10	-	-	-
園芸学部	園芸学科	64	44	9	5	-	6	-
	応用生命化学科	31	20	7	4	-	-	-
	緑地環境学科	66	46	11	9	-	-	-
	食料資源経済学科	29	23	2	-	-	4	-
	計	190	133	29	18	-	10	-
医学部	医学科※	100	85	15	-	-	-	-
薬学部	薬学科	(50)	90	-	-	10	-	-
	薬科学科	(40)		70	10	-	-	-
看護学部	看護学科	80	49	-	-	24	-	7
合 計		2,300	1,761	291	173	58	10	7

※医学部医学科の募集人員には、千葉県地域枠入試の募集人員を含みます。また、国及び千葉県の医師確保対策の計画等により、増員される可能性があります。詳細は、10ページを参照してください。

上記の他に、下記の先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜の募集があります。

方式	募 集 分 野 / 学 部 ・ 学 科 (コ ー ス)		募集人員
方式Ⅰ	物理学関連分野	理学部：物理学科	若干名
	工学関連分野	工学部：総合工学科（物質科学コース）	
	情報・データサイエンス関連分野	情報・データサイエンス学部：情報・データサイエンス学科	
方式Ⅱ	物理学関連分野	理学部：物理学科	若干名
	化学関連分野	理学部：化学科	
	生物学関連分野	理学部：生物学科	
	工学関連分野	工学部：総合工学科（建築学コース，都市工学コース，機械工学コース，医工学コース，電気電子工学コース，物質科学コース，共生応用化学コース）	
	情報・データサイエンス関連分野	情報・データサイエンス学部：情報・データサイエンス学科	
	植物生命科学関連分野	園芸学部：応用生命化学科	
方式Ⅲ	人間科学関連分野	文学部：人文学科（行動科学コース）	若干名
物理学関連分野	理学部：物理学科		
総合型選抜方式	工学関連分野	工学部：総合工学科（物質科学コース）	若干名
	工学関連分野	工学部：総合工学科（デザインコース）	

8. 医学部

医学部における一般選抜の募集人員は次のとおりです。

学科	入試枠	前期日程	後期日程
医学科※	一般枠入試	80名	15名
	千葉県地域枠入試	5名	—

※募集人員については、国及び千葉県の医師確保対策の計画等により、増員される可能性があります。

9. 薬学部

薬学部は、薬学科（6年制：50名）と薬科学科（4年制：40名）で構成されています。

前期日程については、学科を決めず一括募集し、学科への配属（薬学科40名、薬科学科30名）は3年次進級時に本人の希望・学業成績により決定します。

後期日程については、薬科学科（4年制）のみで募集します。

学校推薦型選抜については、薬学科（6年制）のみで募集します。

※薬剤師国家試験の受験資格は、薬学科（6年制）の卒業生に与えられます。

4. 一般選抜

(1) 出 願

ア 出願資格

令和6年1月実施の令和6年度大学入学資格試験(大学入学共通テスト)で各学部・学科・コース・分野が指定する教科・科目を受験した者で、大学入学資格を有するもの又は令和6年3月までに有する見込みのもの

- (注) 「大学入学資格を有する(令和6年3月までに有する見込みのもの)の主な例は、次のとおりです。
なお、9.の個別の入学資格審査を受けようとする者は、学務部入試課入試係(TEL 043-290-2183)へ資格審査の申請方法等を確認のうえ、9月1日(金)までに本学へ資格審査の申請を行ってください。
1. 高等学校(中等教育学校を含む。以下同じ。)を卒業した(見込みの)者
 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した(見込みの)者※
※特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を修了した(見込みの)者が該当します。
 3. 外国において学校教育における12年の課程を修了した(見込みの)者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した(見込みの)者
 5. 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した(見込みの)者
 6. 文部科学大臣の指定した者
 7. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した(見込みの)者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
 8. 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則による高等学校卒業程度認定審査に合格したもの
 9. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月までに18歳に達するもの

イ 出願要件(医学部医学科千葉県地域枠入試の志願者のみ)

医学部医学科の千葉県地域枠入試に出願できる者は、「ア 出願資格」に加え、次の①～③の出願要件をすべて満たす者とします。

- ① 本学に入学する意志を有し、合格した際に入学を確約できる者
- ② 出願時に千葉県医師修学資金の貸与申請を行い、修学資金を借り受ける者
- ③ 将来、医師として千葉県知事が定める医師不足地域等の医療機関に千葉県医師修学資金の貸付期間の1.5倍に相当する期間、従事しようとする強い意志がある者

ウ 出願の際の留意事項等

- ① 一般選抜に出願する場合、国公立大学・学部(※独自日程で入学資格試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。)のうち、前期日程試験を実施する大学・学部から1つ、後期日程試験を実施する大学・学部から1つ出願することができます。国公立大学・学部の前期日程を複数出願したり、後期日程を複数出願したりすることはできません。
※ 独自日程で入学資格試験を行っている公立大学・学部については、公立大学協会のホームページを参照してください。(https://www.kodaikyo.org/)
- ② 本学及び他の国公立大学で実施する学校推薦型選抜、総合型選抜※に合格した者は、当該大学の定める入学辞退手続により入学を辞退した場合を除いて、本学が行う一般選抜を受験しても合格者とはなりません。
※ 本学においては、園芸産業創発学プログラム選抜も総合型選抜に含みます。
- ③ 一般選抜の可否及び入学手続等に関する個人情報は、大学入試センター及び併願先の国公立大学に提供され、国公立大学の分離分割方式の合格者の決定を行うための情報として利用されます。
- ④ 入学資格試験の過程で収集した個人情報は入学資格試験の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学資格試験方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。
- ⑤ 千葉県地域枠入試により入学した者は、地域医療関連科目が必修となることから、一般枠入試の入学より卒業に必要な単位数が増えます。

【千葉県地域枠入試及び千葉県医師修学資金貸付制度について】

目的	医学部医学科の地域枠入試は、地域における医師不足や地域偏在を解消するため、千葉県と連携し、将来の千葉県内の地域医療を担う者を育成することを目的としています。千葉県地域枠入試に合格し、本学に修学する者には、千葉県で運営する千葉県医師修学資金貸付制度による修学資金を貸付けます。
制度概要	<p>※ 以下は予定であり、変更となる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学資金の貸付額 月額 15 万円（6 年間合計 1,080 万円） ・修学資金の貸与期間 令和 6 年 4 月から正規の修学期間を修了する月まで ・修学資金の返還 次のいずれかに該当する事由が生じたときは、当該事由が生じた日の属する月の翌月の末日までに、借り受けた修学資金に利息を付した額を一括で返還しなければなりません。 ア 貸付期間が満了したとき。（返還免除要件を満たす見込みである場合は除く。） イ 修学資金の貸付けの決定が取り消されたとき。 ウ 千葉県知事が定める病院での勤務による返還の免除を受ける前に、死亡したとき。 エ 千葉県知事が定める病院での勤務による返還の免除を受けることができないと確定したとき。 ・修学資金の返還免除 大学を卒業した日の属する月の翌月の初日から起算して 1 年 3 か月以内に医師の免許を取得し、千葉県が指定する期間内に修学資金の貸付期間の 1.5 倍に相当する期間、所定の医療機関に勤務したとき、修学資金の返還を免除します。 また、修学資金の借受人が、死亡し、又は災害、病気その他やむを得ない事由により、修学資金の返還ができなくなったときは、修学資金の返還及びその利息の支払の責務の全部又は一部を免除することがあります。
入学辞退	千葉県地域枠入試の出願要件は、「本学に入学する意志を有し、合格した際に入学を確約できる者」であり、合格者はいかなる理由があっても入学を辞退できません。

(2) 入学者選抜

ア 選抜方法等

(7) 選抜方法

入学者の選抜は、令和 6 年度大学入学共通テストの成績、個別学力検査等の結果及び調査書の内容を総合して行います。（過年度の大学入学共通テストの成績は利用しません。）

合格者の決定は、総合得点により行います。

なお、同点者の順位決定については、文学部、法政経学部、工学部、情報・データサイエンス学部、医学部及び薬学部においては、本学の個別学力検査等の得点が上位の者を優先します。

また、合否判定基準を別に定めている学部があります。（(ウ)合否判定基準を参照）

(4) 2段階選抜の実施

第 1 段階選抜の予告倍率を掲げる次の学部・学科では、志願者数が募集人員に対する予告倍率を超えた場合に、2 段階選抜（各学部・学科が指定する大学入学共通テストの教科・科目の成績（素点）の総得点により第 1 段階選抜を行い、その合格者についてのみ個別学力検査等を行う。）を実施することがあります。ただし、予告倍率を緩和する場合があります。

学部・学科		第 1 段階選抜の予告倍率		
		前期日程	後期日程	
法政経学部	法政経学科	3.5 倍	13 倍	
医学部	医学科	【一般枠入試】	3 倍	7 倍
		【千葉県地域枠入試】	3 倍	—

大学入学共通テストの指定教科・科目																	
学部・学科・課程・コース・分野	日程	パターン	地理歴史		公民		数学①		数学②		理科①		理科②		外国語		
			世B	日B	地B	地理B	倫政経	数IA	数IIB	数IA	数IIB	物化生	物化生	英	独	仏	中
園芸学科 応用生命化学科 緑地環境学科	前期 後期	①	1	1 (注)	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
園芸学部	前期	①	1	2	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
園芸学部 食料資源経済学科	前期	②	1	1 (注)	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
園芸学部 食料資源経済学科	後期	備考	1	1 (注)	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
医学部 【一般転入試】(前期・後期) 【千葉県地域転入試】(前期)	前期 後期	①	1	1 (注)	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
薬学部 薬科学科 (一括募集)	前期	①	1	1 (注)	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
薬学部 薬科学科	後期	備考	1	1 (注)	1	1	1	1	1	(1)							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														
看護学部 看護学科	前期	①	1	1 (注)	1	1	1	1	1	2							1
			(注) 地理歴史及び公民において、指定する科目数が1科目のところを2科目受験する場合、第1解答科目(その教科の試験時間中の前半で解答する科目)で指定する科目を受験してください。(第1解答科目の成績を合否判定に利用します。)														

(前期日程)

日程	学部	学科・課程・コース・分野	個別学力検査等(前期日程) の出題教科・科目等	特記事項
前期	園芸学部	園芸学科 応用生命化学科 緑地環境学科	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)	数Bの出題範囲については、19ページを参照のこと。
			理(物基・物, 化基・化, 生基・生から2)	
			外(コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ)	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、28～30ページを参照のこと。
		食料資源経済学科	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)	数Bの出題範囲については、19ページを参照のこと。
			外(コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ)	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、28～30ページを参照のこと。
			面接	
	医学部	医学科 【一般枠入試】 【千葉県地域枠入試】	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)	数Bの出題範囲については、19ページを参照のこと。
			理(物基・物, 化基・化, 生基・生から2)	
			外(コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ)	
			面接	
	薬学部	薬学科 薬科学科 (一括募集)	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)	数Bの出題範囲については、19ページを参照のこと。
			理(化基・化) (物基・物, 生基・生から1)	
外(コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ)			本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、28～30ページを参照のこと。	
看護学部	看護学科	理(物基・物, 化基・化, 生基・生から2)		
		外(コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ)	本学部が定める外国語検定試験で一定の成績を修めた場合、成績に応じて所定の点数を加点する。詳細については、28～30ページを参照のこと。	
		面接		

ウ 大学入学共通テスト及び個別学力検査等の配点

(7) 前期日程

学部・ 学科・課程・ コース・分野		試験の区分 及び教科 ・科目等		大学入学共通テスト							個別学力検査等							合計				
				国 語	地 理 歴 史	公 民	数 学	理 科	外 国 語	計	国 語	数 学	地 理 歴 史	理 科	専 門 適 性 検 査	外 国 語	面 接		そ の 他	計		
国際教養学部		国際教養学科		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	国語(300)又は理科(300)を選択 数学(300)又は地理歴史(300)を選択			300			900	1,350		
文学部	人文学科	行動科学コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200	150				200		550	1,000	
		歴史学コース		100	50	50	50	50	50	100	450	200		200				200		600	1,050	
		日本・ユーラシア文化コース		100	50	50	50	50	50	100	450	300		300				300		900	1,350	
		国際言語文化コース		100	50	50	50	50	50	100	450	200		150				200		550	1,000	
法政経学部		法政経学科		100	50	50	50	50	50	100	450	300	300				300		900	1,350		
教育学部	学校教育員養成課程	小学校コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300			200	200	1,000	1,450		
		中学校コース	国語科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	150			300	250	1,000	1,450	
			社会科教育分野		50	100	100	25	25	100	50	450	300	200			300	200		1,000	1,450	
			数学科教育分野		100	50		50	50	50	50	100	450		500		100	250	150	1,000	1,450	
			理科教育分野		100	50		50	50	50	50	100	450		200	200	200	200		1,000	1,450	
			技術科教育分野		100	50		50	50	50	50	100	450		200	150	500	150		1,000	1,450	
		小中専門教科コース	音楽科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	150			200	150		500	1,000	1,450
			図画工作・美術科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200			200	200		400	1,000	1,450
			保健体育科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200			200	200		400	1,000	1,450
			家庭科教育分野		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	200			250	250		1,000	1,450
		英語教育コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300				200	300		200	1,000	1,450
		特別支援教育コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300			200	200		1,000	1,450	
		乳幼児教育コース		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	300	300			200	200		1,000	1,450	
		養護教諭コース		100	50		50	50	50	50	100	450			300		300	100	300	1,000	1,450	
理学部	数学・情報数理学科		100	50		50	50	50	50	100	450		600	150		150			900	1,350		
	物理学科		100	50		50	50	50	50	100	450		300	物理 300 化学 100		200			900	1,350		
	化学科		100	50		50	50	50	50	100	450		250	化学 300 物理 生物 地学 150		200			900	1,350		
	生物学科		100	50		50	50	50	50	100	450		150	生物 350 物理 化学 200		200			900	1,350		
	地球科学科		100	50		50	50	50	50	100	450		250	200 200		250			900	1,350		
工学部	総合工学科	建築学コース 機械工学コース 医工学コース 電気電子工学コース		100	50		50	50	50	100	450		300	物理 200 化学 100		300			900	1,350		
		都市工学コース デザインコース 物質科学コース 共生応用化学コース		100	50		50	50	50	100	450		300	150 150		300			900	1,350		
情報・データサイエンス学部		情報・データサイエンス学科		100	50		50	50	50	100	450		300	物理 200 化学 100		300			900	1,350		
園芸学部	園芸学科 応用生命化学科 緑地環境学科		100	50		50	50	50	100	450		300	150 150		300			900	1,350			
	食料資源経済学科		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450		450			450			900	1,350		
医学部		医学科 【一般枠入試】 【千葉県地域枠入試】		100	50		50	50	50	100	450		300	150 150		300	100		1,000	1,450		
薬学部		薬学科, 薬科学科(一括募集)		100	50		50	50	50	100	450		300	150 150		300			900	1,350		
看護学部		看護学科		100	50		50	50	50	100	450			250 250		300	100		900	1,350		

※教育学部の「その他」については、次ページの注意事項を参照



チーム医療 I

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered	履修年次/ターム / Students Year/Term to take the Course	単位数 / Credits	講義回数 / Number of Classes
前期	1年 / 1 - 2ターム	2.0	20

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部 / 医学部 / 医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	350名
受講対象 / Students for whom Course is Intended	医学部1年, 看護学部1年, 薬学部1年, 工学部4年
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目

メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目 (メディア授業実施が半数以下) / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	オンデマンド型 / On-demand type 同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用するシステム / System for online class	Google Workspace / Google Workspace Moodle / Moodle Zoom / Zoom

担当教員 / Instructor

笠井 大

朝比奈 真由美

講義コード / Class Code :
M010800601

科目コード / Course Code :
M0108006

ナンバリングコード /
Numbering Code : MM121

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/04/03

概要 / Brief Description	亥鼻IPEでは医学、看護、薬、工学部の学生がともに互いに対等なグループの一員として学習することにより、将来のチーム医療の実践に必要な能力を修得する。 Step 1「共有」は、患者やサービス利用者とふれあう体験、コミュニケーション・ワークショップや、数々のグループワークなどをとおして、「専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力」を身につけるステップである。最初に医学生として修得しておくべき医療者としての倫理、救急蘇生の基礎を学習する。	
目標 / Goals	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力。 Step 1の終了時、学生は以下のことができる。 I. チームの取り組みと成果を説明できる II. チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる III. チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる IV. 患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる V. 専門職として成長するために何が必要かを考えることができる VI. チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	事前学習、リフレクションシートの作成、最終レポート作成	
キーワード / Keywords	チーム医療、専門職連携教育、患者中心の医療、コミュニケーション	
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	30	最終レポートの内容から学習目標達成状況に関して成績評価を行う
平常点評価	50	グループ（ユニット）活動への参加（観察記録）（20%） 自己評価・グループ（ユニット）評価の入力状況および最終レポート以外の提出物の提出状況および内容（30%） ※プロフェッショナリズムも反する行為があった場合、その内容・程度により平常点評価が減点される。
その他	20	ユニット発表の内容 ※麻疹・風疹に対する基準をクリアしない学生は、特別な理由がある場合を除き、実習に参加することはできない。
フィードバック方法 / Feedback	授業参加態度、リフレクションシートの内容等により必要時フィードバックを実施	

関連科目 / Related course	
履修要件 / Prerequisite	
教科書 / Textbooks	参 考 文 献 1. CAIPE（専門職連携教育センター：The Centre for the Advancement of Interprofessional Education）： https://www.caipe.org/ 2. JAIPE（日本保健医療福祉連携教育学会）： http://www.jaipe.net/ 3. 亥鼻IPE（千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター）： https://www.n.chiba-u.jp/iperc/ 4. Reeves S, Fletcher S, Barr H, et al. A BEME systematic review of the effects of interprofessional education: BEME Guide No. 39. Medical teacher 2016; 38: 656-668.
参考書 / Reference Books	
備考 / Remarks	https://concm.m.chiba-u.jp/files/7016/4757/8088/cl_ipe1.pdf

授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2023/04/11)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：IV～V 場所：第1講義室 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美 授業種別：講義・演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：倫理とプロフェッショナリズム入門 Key word：倫理, プロフェッショナリズム, 不正行為、ハラスメント, 性暴力, 急性アルコール中毒, 利益相反
備考 / Notes	

第2回 (2023/04/19)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：IV～V 場所：第1講義室 担当教員：大島、砂原 他 授業種別：講義
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：心肺蘇生講義 Key word：Basic Life Support, 心肺蘇生法
備考 / Notes	

第3回 (2023/05/10)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第1講義室、第三実習室等 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別：講義 (Shared learning) ・演習 (Mix group)
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：オリエンテーション・医療の歴史・コミュニケーションWG Key word：IPE, グランドルール, リフレクション, コミュニケーション
備考 / Notes	

/ Notes

第4回 (2023/05/17)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第1講義室等 担当教員：朝比奈真由美、笠井大、IPE担当教員 授業種別：実習 (Mix group)
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：当事者体験 Key word：患者会
備考 <small>/ Notes</small>	

第5回 (2023/05/24)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第1講義室、第三実習室等 担当教員：笠井 大、朝比奈 真由美、IPE担当教員 授業種別：演習 (Mix group)
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：ふれあい体験実習オリエンテーション Key word：患者
備考 <small>/ Notes</small>	

第6回 (2023/05/31)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：Ⅲ～Ⅴ 場所：各実習施設、第1講義室等 担当教員：IPE担当教員、実習病院協力職員 授業種別：実習 (Mix group)
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：ふれあい体験実習①*** Key word：患者の思い
備考 <small>/ Notes</small>	第6回、第7回のどちらか指定された日に出席すること

第7回 (2023/06/14)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：Ⅲ～Ⅴ 場所：各実習施設等 担当教員：IPE担当教員、実習病院協力職員 授業種別：実習 (Mix group)
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：ふれあい体験実習②*** Key word：患者の思い
備考 <small>/ Notes</small>	第6回、第7回のどちらか指定された日に出席すること

第8回 (2023/06/21)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第1講義室、第三実習室等 担当教員：朝比奈真由美、笠井大、IPE担当教員 授業種別：演習 (Unit)
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：ふれあい体験実習ふりかえり Key word：グループ・ディスカッション

備考 / Notes	
---------------	--

第9回 (2023/06/28)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第1講義室、第三実習室等 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別：演習 (Unit)
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：グループワーク発表準備 Key word：プレゼンテーション
備考 / Notes	

第10回 (2023/07/05)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第1講義室、第三実習室等 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別：演習 (Unit)
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：学習発表会 Key word：プレゼンテーション
備考 / Notes	

Copyright (C) 2010 - 2023 Chiba University All Rights Reserved.



チーム医療Ⅱ / Interprofessional Education Ⅱ

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered	履修年次/ターム / Students' Year/Term to take the Course	単位数 / Credits	講義回数 / Number of Classes
前期	2年 / 1 - 2ターム	1.0	17

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部 / 医学部 / 医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	300名
受講対象 / Students for whom Course is Intended	医学部2年, 看護学部2年, 薬学部2年
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目

メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目 (メディア授業実施が半数以下) / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用する システム / System for online class	Google Workspace / Google Workspace Moodle / Moodle Zoom / Zoom

担当教員 / Instructor

笠井 大	朝比奈 真由美	
講義コード / Class Code : M010800300	科目コード / Course Code : M0108003	ナンバリングコード / Numbering Code : MM221

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/04/03

概要 / Brief Description	亥鼻IPEでは、医学・看護・薬学部の学生がともに互いに対等なグループの一員として学習することにより、将来のチーム医療の実践に必要な能力を修得する。 Step2「創造」は、保健、医療、福祉現場での見学実習やグループワークをとおして、「チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力」を身につけるステップである。	
目標 / Goals	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力。 Step2の終了時、学生は以下のことができる。 I. チームの目的達成に向け、自分の行動を調整できる II. チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる III. 他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる IV. 医療福祉サービスおよび行われているケアを患者・サービス利用者の自律および自立の観点から説明できる V. 実際に行われている治療ケアの根拠と理由を（説明を受けて）理解できる VI. 医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	事前学習、リフレクションシート提出、最終レポート提出。	
キーワード / Keywords		
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	30	最終レポートの内容から学習目標達成状況に関して成績評価を行う。
平常点評価	50	グループ（ユニット）活動への参加（観察記録）（20%）、自己評価・グループ（ユニット）評価の入力状況および最終レポート以外の提出物の提出状況および内容（30%）から学習目標達成状況に関して成績評価を行う。 ※プロフェッショナリズムに反する行為のあった場合、その内容、程度により評価が減点される。
その他	20	ユニット発表の内容 ※B型肝炎、風疹、麻疹、ムンプス、水痘带状疱疹の抗体価が規定を満たしていないものは授業に参加できない。
フィードバック方法 / Feedback	授業への参加態度、リフレクションシートの内容等により、必要時教員からフィードバックを行う。	
関連科目 / Related course		
履修要件 / Prerequisite		

<p>教科書 / Textbooks</p>	<p>参 考 資 料</p> <ol style="list-style-type: none"> 堀公俊他. チーム・ビルディング-人と人を「つなぐ」技法, 日本経済新聞出版社, 2007. 細田満和子. 「チーム医療」とは何か医療とケアに生かす社会学からのアプローチ, 日本看護協会出版会, 2012. 亥鼻IPE 学習ガイド 資料編 千葉大学 医学部 看護学部 薬学部 CAIPE (専門職連携教育センター: The Centre for the Advancement of Interprofessional Education) : https://www.caipe.org/ JAIPE (日本保健医療福祉連携教育学会) : http://www.jaipe.net/ 亥鼻IPE (千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター) : https://www.n.chiba-u.jp/iperc/ Reeves S, Fletcher S, Barr H, et al. A BEME systematic review of the effects of interprofessional education: BEME Guide No. 39. Medical teacher 2016; 38: 656-668.
<p>参考書 / Reference Books</p>	
<p>備考 / Remarks</p>	<p>https://concm.m.chiba-u.jp/files/6916/4757/8102/cl_ipe2.pdf</p>

📌 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2023/05/18)

<p>主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position</p>	<p>時限: III・IV 場所: 第1講義室・第2講義室・同窓会館等 担当教員: 医学教育研究室 笠井大, 朝比奈真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義・演習</p>
<p>授業・学習方法や内容 / Methods and contents</p>	<p>授業内容: ①オリエンテーション ②専門職連携とチームについて ③チーム・ビルディング Key word: 専門職, チーム・ビルディング</p>
<p>備考 / Notes</p>	

第2回 (2023/05/25)

<p>主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position</p>	<p>時限: III・IV 場所: 第1講義室・第2講義室・同窓会館等 担当教員: 医学教育研究室 医学教育研究室 笠井大, 朝比奈真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義・演習</p>
<p>授業・学習方法や内容 / Methods and contents</p>	<p>授業内容: ①多様な実習施設の位置づけ ②実習オリエンテーション ③実習準備 Key word: 保健・医療・福祉施設, チーム医療</p>
<p>備考 / Notes</p>	

第3回 (2023/06/08)

<p>主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position</p>	<p>時限: III～V 場所: 各実習施設、第1講義室・第2講義室等 担当教員: 実習協力職員 授業種別: 実習</p>
---	---

授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：実習，病院，地域医療保健施設におけるチーム医療の見学 Key word：専門職連携実践
備考 / Notes	

第4回 (2023/06/15)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ～Ⅴ 場所：各実習施設、第1講義室・第2講義室等 担当教員：実習協力職員 授業種別：実習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：実習，病院，地域医療保健施設におけるチーム医療の見学 Key word：専門職連携実践
備考 / Notes	

第5回 (2023/06/22)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ～Ⅴ 場所：各実習施設、第2講義室・同窓会館等 担当教員：実習協力職員 授業種別：実習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：実習，病院，地域医療保健施設におけるチーム医療の見学 Key word：専門職連携実践
備考 / Notes	

第6回 (2023/06/29)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ・Ⅳ 場所：第2講義室・第3講義室等 担当教員：医学教育研究室 笠井大，朝比奈真由美，IPE担当教員 授業種別：演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：①保健医療福祉の現場における専門職連携の実際 ②実習振り返り ③発表についての討論 Key word：チーム・ビルディング，専門職連携実践
備考 / Notes	

第7回 (2023/07/13)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：Ⅲ・Ⅳ 場所：第2講義室・第3講義室等 担当教員：医学教育研究室 笠井大，朝比奈真由美，IPE担当教員・実習病院協力職員 授業種別：演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：学習成果発表会，全体討議 Key word：プレゼンテーション
備考 / Notes	



チーム医療Ⅲ

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered	履修年次/ターム / Students Year/Term to take the Course	単位数 / Credits	講義回数 / Number of Classes
後期	3年 / 後期集中	1.0	10

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部 / 医学部 / 医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	300名
受講対象 / Students for whom Course is Intended	医学部3年, 看護学部3年, 薬学部3年
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目

メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目 (メディア授業実施が半数以下) / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用するシステム / System for online class	Google Workspace / Google Workspace Moodle / Moodle Zoom / Zoom

担当教員 / Instructor

笠井 大	朝比奈 真由美	
講義コード / Class Code : M010800701	科目コード / Course Code : M0108007	ナンバリングコード / Numbering Code : MM321

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/04/03

概要 / Brief Description	亥鼻IPEでは医学，看護，薬学部の学生がともに互いに対等なグループの一員として学習することにより，将来のチーム医療の実践に必要な能力を修得する。 Step3「解決」では，チームにおける対立や葛藤に回避せず向き合っ、患者・サービス利用者中心に解決していくための姿勢や方法を2日間の講義とグループワーク，発表会での討議を通して学ぶ。	
目標 / Goals	患者，サービス利用者，医療専門職間の対立を理解し，問題解決ができる能力。 Step 3の終了時，学生は以下のことができる I．学生の立場から専門職としてあるべき姿を考えることができる（プロフェッショナルとしての態度・信念） II．対立および対立の解決について説明でき，チームで生じている対立に気づくことができる（チーム運営のスキル） III．チームの目標達成のためにチーム内の対立を解決できる（チームの目標達成のための行動） IV．複数の問題解決案の中から，患者・サービス利用者らの意見を尊重した最も良い方法を，チームとして選択できる（患者を尊重した治療・ケアの提供） V．患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について，チームメンバーと率直に話し合うことができる（チームの凝集性を高める態度） VI．学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいて，チームメンバーに意見を述べるができる（専門職としての役割遂行） コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	事前学習、リフレクションシート提出、最終レポート提出	
キーワード / Keywords	専門職連携協働、患者中心の医療、対立、ジレンマ、問題解決、プレゼンテーションスキル、リフレクション、フィードバック	
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	30	最終レポートの内容から学習目標達成状況に関して成績評価を行なう。
平常点評価	50	グループ活動への参加（20%），自己評価・グループ評価の入力状況および最終レポート以外の提出物の提出状況および内容（30%）から学習目標達成状況に関して成績評価を行なう。 ※プロフェッショナリズムに反する行為のあった場合，その内容，程度により平常点評価が減点される。
その他	20	グループ発表の内容（20%）から学習目標達成状況に関して成績評価を行なう。
フィードバック方法 / Feedback	授業への参加態度、リフレクションシートの内容等により必要時フィードバックを行う。	
関連科目 / Related course		
履修要件		

/ Prerequisite	
<p style="text-align: center;">教科書 / Textbooks</p>	<p>教科書・参考資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 細田満和子：「チーム医療」とは何か医療とケアに生かす社会学からのアプローチ，日本看護協会出版会，2012. 田村由美：新しいチーム医療看護とインタープロフェッショナルワーク入門，看護の科学社，2012. Reeves S, Fletcher S, Barr H, et al. A BEME systematic review of the effects of interprofessional education: BEME Guide No. 39. Medical teacher 2016; 38: 656-668. <p>医療倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 赤林朗編：（改訂版）「入門・医療倫理（1）」勁草書房（2017） <p>コミュニケーション，チーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 堀公俊 他：チーム・ビルディングー人と人を「つなぐ」技法，日本経済新聞出版社，2007. エドガー・H・シャイン：人を助けるとはどういうことか本当の「協力関係」をつくる7つの原則，英治出版株式会社，2009. ジョン・P・コッター：第2版リーダーシップ論人と組織を動かす能力，ダイヤモンド社，2012. <p>参考URL</p> <ol style="list-style-type: none"> CAIPE（専門職連携教育センター：The Centre for the Advancement of Interprofessional Education）：https://www.caipe.org/ JAIPE（日本保健医療福祉連携教育学会）：http://www.jaipe.net/ 亥鼻IPE（千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター）：https://www.n.chiba-u.jp/iperc/
<p style="text-align: center;">参考書 / Reference Books</p>	
<p style="text-align: center;">備考 / Remarks</p>	<p>https://concm.m.chiba-u.jp/files/5016/4757/8114/cl_ipe3.pdf</p>

📌 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2024/01/10)

<p style="text-align: center;">主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position</p>	<p>時限：I～V 場所：第1講義室・第3講義室等 担当教員：朝比奈，笠井，IPE担当教員 授業種別：講義（Shared learning），グループワーク（Mix group）</p>
<p style="text-align: center;">授業・学習方法や内容 / Methods and contents</p>	<p>授業内容：対立のメカニズム，プレゼンテーションの方法対立や葛藤を分析して伝える Key word：専門職連携，対立と葛藤，ジレンマ，プレゼンテーション</p>
<p style="text-align: center;">備考 / Notes</p>	<p>授業課題：参考資料 IPE学習ガイド Step1，2の資料</p>

第2回 (2024/01/11)

<p style="text-align: center;">主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position</p>	<p>時限：I～V 場所：第1講義室・第3講義室等 担当教員：笠井 大，朝比奈 真由美，IPE担当教員 授業種別：講義（Shared learning），グループワーク（Mix group）</p>
--	---

授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：対立や葛藤の解決を目指したアプローチ、発表会 Key word：専門職連携，対立と葛藤，ジレンマ，合意形成
備考 / Notes	授業課題：参考資料 IPE学習ガイド Step1, 2の資料

Copyright (C) 2010 - 2023 Chiba University All Rights Reserved.



チーム医療Ⅳ

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered	履修年次/ターム / Students' Year/Term to take the Course	単位数 / Credits	講義回数 / Number of Classes
前期	1年・2年・3年・4年・ 5年・6年 / 前期集中	1.0	14

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部/医学部/医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	300名
受講対象 / Students for whom Course is Intended	医学部4年, 看護学部3年, 薬学部4年
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目
メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目 (メディア授業実施が半数以下) / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠️ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用するシステム / System for online class	Google Workspace / Google Workspace Moodle / Moodle Zoom / Zoom

担当教員/ Instructor

笠井 大

朝比奈 真由美

講義コード / Class Code :
M010800801

科目コード / Course Code :
M0108008

ナンバリングコード /
Numbering Code : MM322

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/03/06

概要 / Brief Description	亥鼻IPEでは医学，看護，薬学部の学生がともに互いに対等なグループの一員として学習することにより，将来のチーム医療の実践に必要な能力を修得する。 4年目のプログラムStep4「統合」では患者・サービス利用者中心の診療・ケア計画をチームで立案する課題について，模擬患者面接，ICFを利用した全人的評価，専門職コンサルテーションとグループワーク，発表会での討議を通して臨床実習で行う診療活動を3日間の集中演習で模擬的に実践する。	
目標 / Goals	患者・サービス利用者を全人的に評価し，患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力。 Step4の終了時，学生は以下のことができる。 I. チームの目標達成のために，チーム状況进行评估し，自己の実践を決定できる（チームの目標達成のための行動） II. チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる（チーム運営のスキル） III. チームメンバー及びかかわる多様な専門職と，良好な人間関係のもと，話しやすい雰囲気を作ることができる（チームの凝集性を高める態度） IV. 患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画を，チームとして立案できる（患者を尊重した治療・ケアの提供） V. 専門職及び教員の支援を受けて，最新の専門知識を退院計画に反映できる（プロフェッショナルとしての態度・信念） VI. 自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲及び課題を学生の立場から説明できる（専門職としての役割遂行） コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	事前学習、リフレクションシート提出、最終レポート提出	
キーワード / Keywords	患者中心の医療、国際生活機能分類（ICF）、専門職連携協働、チーム医療	
評価方法・基準/ Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	30	最終レポートの内容から学習目標達成状況に関して成績評価を行う。
平常点評価	50	グループ活動への参加（20%），自己評価・グループ評価の入力状況および最終レポート以外の提出物の提出状況および内容（30%）から学習目標達成状況に関して成績評価を行う。 ※プロフェッショナリズムに反する行為のあった場合，その内容，程度により評価が減点される。
その他	20	グループ発表の内容（20%）から学習目標達成状況に関して成績評価を行う。
フィードバック方法 / Feedback	授業への参加態度、リフレクションシートの内容等から必要時フィードバックを行う。	
関連科目 / Related course		

履修要件 / Prerequisite	
教科書 / Textbooks	<p>全体資料 亥鼻IPE学習ガイド, 亥鼻IPE学習ガイド(資料編) (moodleに提示)</p> <p>ICF配布資料 各症例に関する参考資料 事前にmoodleで提示する症例に記載</p> <p>ICF参考資料 厚生労働省ホームページ「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」(日本語版) https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html</p> <p>IPE参考 1. CAIPE(専門職連携教育センター: The Centre for the Advancement of Interprofessional Education): https://www.caipe.org/ 2. JAIPE(日本保健医療福祉連携教育学会): http://www.jaipe.net/ 3. 亥鼻IPE(千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター): https://www.n.chiba-u.jp/iperc/ 4. Reeves S, Fletcher S, Barr H, et al. A BEME systematic review of the effects of interprofessional education: BEME Guide No. 39. Medical teacher 2016; 38: 656-668.</p>
参考書 / Reference Books	
備考 / Remarks	https://concm.m.chiba-u.jp/files/5216/4757/8126/cl_ipe4.pdf

📌 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2023/07/11)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限: IV~V 場所: 第3講義室 担当教員: 笠井, 朝比奈, 赤坂 授業種別: 演習</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容: 統計学編3: 国際生活機能分類(ICF)の概念を知り、提示された症例での全人的評価ができる。 Key word: ICF, 全人的評価, 退院計画</p>
備考 / Notes	授業課題: 国際生活機能分類(ICF)

第2回 (2023/09/20)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限: I~V 場所: 第1講義室、第三実習室、その他 担当教員: 笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義, 演習</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容: 患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって、診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。</p>

	Key word : 患者中心の医療, 専門職連携, 医療面接, 退院支援, ICF, コンサルテーション
備考 / Notes	授業課題: 共通評価項目およびグループ活動への参加, 提出物, レポート, 発表

第3回 (2023/09/21)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限: III~V 場所: 第1講義室、第三実習室、その他 担当教員: 笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義, 演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容: 患者・サービス利用者を全人的に評価し, 患者・サービス利用者中心の専門職連携によって, 診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。 Key word : 患者中心の医療, 専門職連携, 医療面接, 退院支援, ICF, コンサルテーション
備考 / Notes	授業課題: 共通評価項目およびグループ活動への参加, 提出物, レポート, 発表

第4回 (2023/09/22)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限: I~V 場所: 第1講義室、第三実習室、その他 担当教員: 笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義, 演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容: 患者・サービス利用者を全人的に評価し, 患者・サービス利用者中心の専門職連携によって, 診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。 Key word : 患者中心の医療, 専門職連携, 医療面接, 退院支援, ICF, コンサルテーション
備考 / Notes	授業課題: 共通評価項目およびグループ活動への参加, 提出物, レポート, 発表

第5回 (2023/09/25)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限: I~V 場所: 第1講義室、第三実習室、その他 担当教員: 笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義, 演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容: 患者・サービス利用者を全人的に評価し, 患者・サービス利用者中心の専門職連携によって, 診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。 Key word : 患者中心の医療, 専門職連携, 医療面接, 退院支援, ICF, コンサルテーション
備考 / Notes	授業課題: 共通評価項目およびグループ活動への参加, 提出物, レポート, 発表

第6回 (2023/09/26)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限: I~V 場所: 第1講義室、第三実習室、その他 担当教員: 笠井 大, 朝比奈 真由美, IPE担当教員 授業種別: 講義, 演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容: 患者・サービス利用者を全人的に評価し, 患者・サービス利用者中心の専門職連携によって, 診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。 Key word : 患者中心の医療, 専門職連携, 医療面接, 退院支援, ICF, コンサルテーション

備考 / Notes	授業課題：共通評価項目およびグループ活動への参加，提出物，レポート，発表
第7回 (2023/09/27)	
主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	時限：I～V 場所：第1講義室、第三実習室、その他 担当教員：笠井 大，朝比奈 真由美，IPE担当教員 授業種別：講義,演習
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：患者・サービス利用者を全人的に評価し，患者・サービス利用者中心の専門職連携によって，診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。 Key word：患者中心の医療，専門職連携，医療面接，退院支援，ICF，コンサルテーション
備考 / Notes	授業課題：共通評価項目およびグループ活動への参加，提出物，レポート，発表

Copyright (C) 2010 - 2023 Chiba University All Rights Reserved.



医師見習い体験学習

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered	履修年次/ターム / Students Year/Term to take the Course	単位数 / Credits	講義回数 / Number of Classes
後期後半	3年 / 5ターム	1.0	7

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部 / 医学部 / 医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	140名
受講対象 / Students for whom Course is Intended	医学部3年生
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目

メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目（メディア授業実施が半数以下） / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用するシステム / System for online class	Google Workspace / Google Workspace Moodle / Moodle Zoom / Zoom

担当教員 / Instructor

笠井 大	朝比奈 真由美	
講義コード / Class Code : M015030401	科目コード / Course Code : M0150304	ナンバリングコード / Numbering Code : MM311

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/03/10

概要 / Brief Description	医師のシャドウイングを通して医師の業務、役割を理解する。医師や他の医療専門職、患者とコミュニケーションすることで、自らを省察し、医療人として求められるコミュニケーション能力、プロフェッショナリズム（自覚、利他、共感、患者に対するいたわり・敬意・責任感、守秘義務、プライバシー保持、生涯学習能力）を修得する。 また、現場の医師の様々な働き方を見学し、自らの医師としてのキャリアについて考察する。	
目標 / Goals	医療人として求められるコミュニケーション技能、プロフェッショナリズム（規範遵守、自覚、利他、共感、患者に対するいたわり・敬意・責任感、守秘義務、プライバシー保持、生涯学習能力、後輩の教育等）を修得する。 自らのキャリアを考える上で自己主導型学習を行うことができる。 コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	事前学習、リフレクションシートの作成・提出、同僚評価の入力	
キーワード / Keywords		
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	30	最終レポートの内容
平常点評価	50	指導医による学生のパフォーマンス評価（評定尺度による評価表を利用）およびグループ活動への参加（20%） 自己評価、同僚評価の入力および最終レポート以外の提出物の提出及び内容（30%）
その他	20	グループ発表（20%）の内容 ＊プロフェッショナリズムに反する行為のあった場合、その内容、程度により平常点評価が減点される。
フィードバック方法 / Feedback	リフレクションシートの内容、授業参加態度について必要時に教員からフィードバック 体験実習指導医からフィードバック 同僚学生からフィードバック	
関連科目 / Related course	チーム医療Ⅲ（IPEⅢ）	
履修要件 / Prerequisite	B型肝炎、風疹、麻疹、ムンプス、水痘帯状ヘルペスに対する千葉大学医学部附属病院の基準を満たさない学生、インフルエンザワクチン未接種および健康診断未受診の学生は、特別な理由がある場合を除き、実習に参加することはできない。	
教科書 / Textbooks		
参考書 / Reference Books		
	実習先 千葉大学医学部附属病院、千葉医療センター、市立青葉病院、市立海浜病院、千葉	

備考 / Remarks	<p>メディカルセンター, 済生会習志野病院, 地域のクリニック</p> <p>【コンピテンス達成レベル表】 https://concm.m.chiba-u.jp/files/6116/4757/8151/cl_isiminarai.pdf</p>
-----------------	---

📌 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2023/11/28)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限：Ⅲ～Ⅳ 場所：第三講義室 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美 授業種別：講義</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容：オリエンテーション Key word：オリエンテーション</p>
備考 / Notes	<p>授業課題：事前学習課題</p>

第2回 (2024/01/17)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限：Ⅰ～Ⅴ 場所：実習先病院、医療施設 担当教員：指導医 授業種別：実習</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容：シャドウイング (見学, 体験), 手伝い Key word：医師見習い, 患者面談, 医療専門職, 振り返り, 同僚評価</p>
備考 / Notes	<p>授業課題：リフレクションシート作成, 面談用紙作成, 自己評価, 同僚評価</p>

第3回 (2024/01/18)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限：Ⅰ～Ⅴ 場所：実習先病院、医療施設 担当教員：指導医 授業種別：実習</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容：シャドウイング (見学, 体験), 手伝い Key word：医師見習い, 患者面談, 医療専門職, 振り返り, 同僚評価</p>
備考 / Notes	<p>授業課題：リフレクションシート作成, 面談用紙作成, 自己評価, 同僚評価</p>

第4回 (2024/01/22)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限：Ⅲ (Ⅳ、Ⅴに続く) 場所：第三講義室 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美 授業種別：講義</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容：発表会オリエンテーション Key word：発表会、プレゼンテーション</p>
備考 / Notes	<p>授業課題：リフレクションシート, 発表内容作成</p>

第5回 (2024/01/22)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	時限：Ⅳ～Ⅴ 場所：第三講義室 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美 授業種別：GW
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：討議, 発表準備 Key word：チーム学習、プレゼンテーション
備考 / Notes	授業課題：リフレクションシート, 発表内容作成

第6回 (2024/01/23)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	時限：Ⅰ～Ⅱ 場所：第二講義室 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美 授業種別：GW
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：グループ討議, 発表準備 Key word：チーム学習、プレゼンテーション
備考 / Notes	授業課題：リフレクションシート, 発表内容作成

第7回 (2024/01/29)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	時限：Ⅲ～Ⅴ 場所：第三講義室 担当教員：笠井 大, 朝比奈 真由美, 他 授業種別：発表・討議
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	授業内容：グループ発表・全体討議 Key word：振り返り, プレゼンテーション, 評価
備考 / Notes	授業課題：発表, 評価, 最終レポート

地域医療実習（19M、4～5年）

- 1) ユニット名 地域医療実習
- 2) ユニット責任者 尾内善広
- 3) ユニット担当教員一覧…千葉大学Moodleを参照のこと
- 4) ユニットの概要

公衆衛生学で担当する分野は、疫学、母子保健、学校保健、感染症、成人・老人保健、地域医療、衛生行政、国際保健、医の倫理など幅広い。実習では、厚生労働省、保健所等千葉県内行政機関、千葉県衛生研究所、地域医療などの現場を体験あるいは地域医療の第一線の実施者が多く参加する学会に参加し、発表や議論を聴講することにより、地域医療における課題や公衆衛生の重要性を理解する。

5) ユニットのゴール、コンピテンスと達成レベル

・ゴール

公衆衛生の現場を実際に体験することにより、公衆衛生的視点を持った医療従事者になること

・コンピテンスと達成レベル

ユニットコンピテンス		卒業コンピテンスに対する達成レベル (地域医療実習ユニット)	
Ⅱ. 医学とそれに関連する領域の知識			
千葉大学医学部学生は、卒業時に 基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。 以下の知識を有し、応用できる。			
4	病因、構造と機能の異常、疾病自然経過と予防	B	応用できる知識の習得が単位認定の要件である (Applied)
6	疫学、人口統計、環境	B	
7	医療の安全性と危機管理	B	
8	医学医療に影響を及ぼす文化、社会的要因	B	
Ⅲ. 医療の実践			
千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を原則に従って計画できる。			
5	頻度の高い疾患の診断と治療計画を患者の心理・社会的因子、文化的背景、疫学、EBMを考慮して立てられる。	B	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である (Applied)
9	リハビリテーション、地域医療、救急医療、集中医療に参加できる。	B	
14	電子化された医学・医療に関する情報を利用できる。	C	基盤となる態度・スキルの修得が単位認定の要件である (Basic)

ユニットコンピテンス		卒業コンピテンスに対する達成レベル (地域医療実習ユニット)	
V. 医学、医療、保健、社会への貢献			
千葉大学医学部学生は、卒業時に 医学、医療に関する保険、保健制度、機関、行政の規則等に基づいた業務と医療の実践、研究、開発を通して 社会に貢献できることを理解する。			
1	各種保険制度など医療制度を理解する。	B	理解と計画立案が単位認定の要件である。(Applied)
2	患者の診療、健康の維持、増進のために各種医療専門職の有用性を理解する。	B	
3	地域の保健、福祉、介護施設の活用が患者個人と医療資源の適正な利用に必要であることを理解する。	B	理解と計画立案が単位認定の要件である。(Applied)
4	患者と家族の健康の維持、増進のために施設を適切に選択できる。	B	
5	地域の健康・福祉に関する問題を評価でき、疾病予防プランを立案できる。	B	
6	医師として地域医療に関わることの必要性を理解する。	B	
7	医学・医療の研究、開発が社会に貢献することを理解する。	B	

・授業スケジュールとコンピテンス

- 1) 厚生労働省、千葉県内行政機関、千葉県衛生研究所などでおこなわれている予防事業の仕組みを理解する。
- 2) 新興感染症、再興感染症、結核、HIV、インフルエンザなどの感染症対策の仕組みを理解し、医療機関との連携のあり方を考察する。
- 3) 公衆衛生における様々な課題抽出、課題解決計画の策定、計画実施、実践の評価、改善への取り組みなどのPDCAサイクルの実践の内容を理解する。

6) 評 価 法

実習に遅刻せず全日程出席すること（含：千葉県公衆衛生学会参加）、全体で行う発表会に遅刻せず出席し、全発表を聴講あるいは視聴（オンデマンド視聴形式の場合）することが評価の条件である。

各グループの発表（10%）

個人提出のレポート（90%）

7) 授業スケジュールと対応するコンピテンス・レベル（Ap：Applied, Ba：Basic）

5年次生を対象に地域医療実習の説明会を以下のようにMoodle上で資料・動画を公開する形式で実施する。必ず確認・視聴すること。なお、授業のスケジュールは、6年次開始前に配付されるシラバスにて確認すること。

	授業実施日	時 限	場 所	担 当 教 官	授業内容
1	調整中 (8月～11月初旬)	左記期間中随時	Moodle上の 地域医療実習 (5年) コース内	尾内	実習説明



地域医療学

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered	履修年次/ターム / Students Year/Term to take the Course	単位数 / Credits	講義回数 / Number of Classes
通年	1年・2年・3年・4年・ 5年 / 集中	1.0	10

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部/医学部/医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	
受講対象 / Students for whom Course is Intended	
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目
メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目（メディア授業実施が半数以下） / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠️ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用するシステム / System for online class	Google Workspace / Google Workspace Zoom / Zoom

担当教員 / Instructor

伊藤 彰一	鋪野 紀好	山内 かづ代
荒木 信之		

講義コード / Class Code :
M017350101

科目コード / Course Code :
M0173501

ナンバリングコード /
Numbering Code : MM081

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/03/09

概要 / Brief Description	地域医療の現状と課題についての基本的知識を得たうえで、地域医療機関で見学・実習を行い、現状と課題についての理解を深めつつ、その発展と改善のための方法を考察する。発表会を通して実習経験を共有し、地域社会や地域医療についての理解を深める。将来地域医療に携わる者にとって、地域医療学修のスタートアップとなる科目である。 ※地域枠学生は原則として全ての講義・実習に出席すること。 ※地域枠学生でなくても、学年を問わず、講義に出席することが出来るが、原則として実習には参加できない。	
目標 / Goals	①地域医療の現状と課題について知る。 ②地域医療の発展と改善のための方法について考察する。 ③将来地域医療に携わる者として自らのキャリアをデザインし自己の向上を図る。 コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	指定なし	
キーワード / Keywords		
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	40	最終レポート
平常点評価	30	授業・実習評価（課題を含む）
その他	30	発表会の内容・パフォーマンス
フィードバック方法 / Feedback	授業中の口頭でのフィードバック等	
関連科目 / Related course		
履修要件 / Prerequisite	7月12日地域医療実習までに必須のすべてのワクチン接種を済ませておくこと（参照：履修案内）	
教科書 / Textbooks		
参考書 / Reference Books		
備考 / Remarks	単位認定のためには原則としてすべての授業（講義・実習）に参加しなければならない。正当な理由による欠席の場合は、可及的速やかにその理由を証明する資料とともに学務係に届け出ること。 【コンピテンス達成レベル表】 https://concm.m.chiba-u.jp/files/1716/4757/9464/cl_tiikiiryous.pdf	

自 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2023/05/30)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：V 場所：第2講義室 担当教員：医学教育学／伊藤彰一、地域医療教育学／山内かづ代、鋪野紀好、荒木信之 次世代構想医療センター／吉村健佑 授業種別：講義
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：イントロダクション 千葉県医師修学資金貸付制度と地域医療政策 Key word：千葉県医師修学資金貸付制度
備考 <small>/ Notes</small>	

第2回 (2023/06/13)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：V 場所：第1講義室 担当教員：医学教育学／伊藤彰一、地域医療教育学／山内かづ代、鋪野紀好、荒木信之 授業種別：講義
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：家庭医療と総合診療 Key word：家庭医療 総合診療
備考 <small>/ Notes</small>	

第3回 (2023/06/20)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：V 場所：第1講義室 担当教員：医学教育学／伊藤彰一、地域医療教育学／山内かづ代、鋪野紀好、荒木信之 みつば脳神経クリニック／大木剛 授業種別：講義
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：地域医療のしくみ Key word：地域医療のしくみ（地域包括ケアシステム）
備考 <small>/ Notes</small>	

第4回 (2023/06/27)

主題と位置付け(担当) <small>/ Subjects and instructor's position</small>	時限：V 場所：第1講義室 担当教員：医学教育学／伊藤彰一、地域医療教育学／山内かづ代、鋪野紀好、荒木信之 地域病院アテンディング／青木信也、勝山陽太、曾我井大地、宮本真衣、室屋洋平、村山愛、森徳郎、山田悟史 他 授業種別：講義
授業・学習方法や内容 <small>/ Methods and contents</small>	授業内容：地域A群病院等、千葉県の地域病院の概説 地域医療の現場から I Key word：地域医療の現場から
備考 <small>/ Notes</small>	

第5回 (2023/07/04)

備考 / Notes	(※) 地域病院実習は、割振りにしたがつて、11月28日と29日のいずれかの実習に参加すること。
---------------	--

第9回 (2023/11/29)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限：Ⅰ～Ⅴ 場所：学外実習 担当教員：地域病院アテンディング／青木信也、勝山陽太、曾我井大地、宮本真衣、室屋洋平、村山愛、森徳郎、山田悟史 他 医学教育学／伊藤彰一、地域医療教育学／山内かづ代、鋪野紀好、荒木信之 授業種別：実習</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容：地域病院実習 Key word：地域社会 地域医療</p>
備考 / Notes	(※) 地域病院実習は、割振りにしたがつて、11月28日と29日のいずれかの実習に参加すること。

第10回 (2023/12/20)

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	<p>時限：Ⅲ～Ⅴ 場所：第1講義室 担当教員：医学教育学／伊藤彰一、地域医療教育学／山内かづ代、鋪野紀好、荒木信之 授業種別：発表会</p>
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	<p>授業内容：発表会</p>
備考 / Notes	

Copyright (C) 2010 - 2023 Chiba University All Rights Reserved.



スカラーシップ・アドバンスト

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered 通年	履修年次/ターム / Students' Year/Term to take the Course 1年・2年・3年・4年・ 5年・6年 / 通年	単位数 / Credits 3.0	講義回数 / Number of Classes 24
---------------------------------------	---	--------------------------------	--

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部/医学部/医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	
受講対象 / Students for whom Course is Intended	
授業の方法 / Course Type	講義
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目

メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目（メディア授業実施が半数以下） / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ⚠ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	
メディア授業で使用するシステム / System for online class	

担当教員 / Instructor

中島 裕史	木村 元子	坂本 明美
小野寺 淳	山口 淳	医学部 全教員

⚠ 各教員のオフィスアワーは、「授業計画詳細情報」の下に記載されています。Office hours of each faculty member are listed below the "Course Plan Detailed Information".

講義コード / Class Code :
M015006001

科目コード / Course Code :
M0150060

**ナンバリングコード /
Numbering Code :** MM091

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/08/08

<p>概要 / Brief Description</p>	<p>本ユニットでは、医学、医療の発展のために必要となる、さらに高い学識的な思考と研究開発のための知識、技術、倫理観を、各研究室の研究・抄読会・カンファレンス等への参加（以下、研究への参加）を経験する事により修得する事を目指します。希望する研究室の研究およびBCRC（ちばBasic & Clinical Research Conference）に参加するベーシック（1, 2年次対象, 必修）, 3年次の講義「イノベティブ先端治療学」を含むアプライド（必修）, 研究発表および論文作成を行うアドバンスト（選択）からなります。</p> <p>ガイダンス後、研究室を選択し、その指導教員（アカデミックメンター）の指示に従って、研究・抄読会・カンファレンス等に参加します。研究室の選択は変更も可能ですが、研究内容の継続性から原則として半年以上ひとつの研究室に所属することが求められます。</p> <p>研究への参加に関する指導・相談はメンターがあたります。研究室の変更, 中断の相談にはユニット責任者があたります。</p> <p>アドバンストは、4～6年次を目安としていますが、各自の計画により全年次を通して自由に履修して構いません。</p>	
<p>目標 / Goals</p>	<p>基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考ができる。新しい情報を生み出すための論理的思考を倫理原則に従って行うことができる。</p> <p>コンピテンスと達成レベルは備考欄URLを参照</p>	
<p>授業外学習 / Self Study</p>	<p>医学研究の実行、まとめおよびプレゼンテーションの準備。学会発表。論文作成および発表。</p>	
<p>キーワード / Keywords</p>		
<p>評価方法・基準/ Evaluation Procedures and Criteria</p>		
<p>項目</p>	<p>%</p>	<p>詳細</p>
<p>試験</p>	<p>0</p>	
<p>レポート</p>	<p>0</p>	
<p>平常点評価</p>	<p>0</p>	
<p>その他</p>	<p>100</p>	<p>基礎医学、臨床医学、社会医学などに関する研究パフォーマンスを評価する。得られた研究結果を基に作成した論文および研究発表について評価を行う。</p>
<p>フィードバック方法 / Feedback</p>	<p>研究過程における質疑。研究発表に関する質疑。</p>	
<p>関連科目 / Related course</p>		
<p>履修要件 / Prerequisite</p>		
<p>教科書 / Textbooks</p>		
<p>参考書 / Reference Books</p>		
<p>備考 / Remarks</p>	<p>https://concm.m.chiba-u.jp/files/7016/4757/9063/cl_scholar_advanced.pdf</p>	

 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回

主題と位置付け(担当) / Subjects and Instructor's position	配属研究室における研究テーマ決定、参加日程決定。
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	配属講座での研究参加。研究結果を基にした学会・論文発表の準備及び実行。
備考 / Notes	

教員名 / Instructor name	中島 裕史
連絡先(研究室・内線番号) / Instructor's office and extension	医学研究院 アレルギー・臨床免疫学
メールアドレス / E-mail address	nakajimh@faculty.chiba-u.jp
オフィスアワー / Office hours	月曜日 10時-12時

教員名 / Instructor name	木村 元子
連絡先(研究室・内線番号) / Instructor's office and extension	実験免疫学・内線5491
メールアドレス / E-mail address	kimuramo@chiba-u.jp
オフィスアワー / Office hours	メールで随時連絡可能

教員名 / Instructor name	坂本 明美
連絡先(研究室・内線番号) / Instructor's office and extension	疾患生命医学、バイオメディカル研究センター・内線：7901
メールアドレス / E-mail address	sakamoto @faculty.chiba-u.jp
オフィスアワー / Office hours	月一金 9:00-14:00

教員名 / Instructor name	小野寺 淳
連絡先(研究室・内線番号) / Instructor's office and extension	
メールアドレス / E-mail address	
オフィスアワー / Office hours	

教員名 / Instructor name	山口 淳
連絡先(研究室・内線番号) / Instructor's office and extension	機能形態学教室・5092
メールアドレス / E-mail address	atsyama@restaff.chiba-u.jp

オフィスアワー / Office hours	Moodleの「メッセージ」機能を通して 随時メールで問い合わせ可能
教員名 / Instructor name	医学部 全教員
連絡先(研究室・内線番号) / Instructor's office and extension	
メールアドレス / E-mail address	
オフィスアワー / Office hours	

Copyright (C) 2010 - 2023 Chiba University All Rights Reserved.



イノベイティブ先端治療学・アドバンスト

① 授業基本情報

/ Course Basic Information

使用言語 / Course Language : 日本語

期別 / Semester Offered 前期	履修年次/ターム / Students' Year/Term to take the Course 1年・2年・3年・4年・5年・6年 / 1 - 2ターム	単位数 / Credits 1.0	講義回数 / Number of Classes 12
---	---	------------------------------------	--

曜日・時限・教室 / Day & Period & Class room

集中講義 (Intensive) 集中講義 :

開講責任部局 / Department, Division	学部 / 医学部 / 医学科
副専攻 / Minor	
副題 / Sub Title	
受入人数 / Maximum Number of Students	
受講対象 / Students for whom Course is Intended	
授業の方法 / Course Type	
実務家教員担当科目 / Course by practitioner	実務家教員担当科目
メディア授業科目該当 / Online courses	対面授業科目 (メディア授業実施が半数以下) / On-site courses (Half or less classes of the course are delivered online) ▲ 「メディア授業科目」は学部学生については、卒業要件単位に含めることができる単位数に上限があります。 / For undergraduate students, there is a restriction on the number of credits earned by online courses that can be counted toward the graduation requirement.
メディア授業実施回数 / Number of online classes	0
メディア授業の種類 / Categories of online class	オンデマンド型 / On-demand type 同時双方向型 / Realtime Streaming type
メディア授業で使用するシステム / System for online class	Moodle / Moodle Zoom / Zoom

担当教員 / Instructor

本橋 新一郎

講義コード / Class Code :
M015006501

科目コード / Course Code :
M0150065

ナンバリングコード /
Numbering Code : MM092

自 授業概要情報

/ Course Outline Information

更新日 / Date of renewal : 2023/05/31

概要 / Brief Description	イノベティブ先端治療学・アドバンスドでは、イノベティブ先端治療学にて能動的に学修した医療イノベーションの実践現場、特に基礎研究により産み出された研究成果（シーズ）からTRへと橋渡しされる部分に関してさらに深掘りして検討し、それらを基にした討論を行う。	
目標 / Goals	イノベティブ先端治療学では、新規の治療法や治療薬を研究・開発・実現するためのプロセスや工夫を理解し、基礎研究とともにイノベーションマインドを持つことの重要性を認識する。最新の研究成果を利用した新規治療の開発の現状や問題点を理解し、臨床応用を念頭においた基礎研究の重要性を学ぶ。学生発表は、担当教員とあらかじめ個別に討論を行った後、全員の前でプレゼンテーションをすることで、より積極的に講義に参加し理解を深めるとともに、講義内容の重要性を認識する。 コンピテンス達成レベル表は、備考欄のURLを参照のこと。	
授業外学習 / Self Study	本講義で取り扱っている内容は、トランスレーショナルリサーチ実施に際して有用な知見であり、受講者が将来基礎研究から臨床応用を目指す際には必ず役立つ内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとする。	
キーワード / Keywords		
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria		
項目	%	詳細
試験	0	
レポート	60	各講義ごとのミニレポート（30%）、最終レポート（30%）
平常点評価	40	発表への参加及び討議への参加(40%)
その他	0	
フィードバック方法 / Feedback	オムニバス形式で開講するため、個別のフィードバックは実施しない。フィードバックを希望する者は担当教員に連絡すること。	
関連科目 / Related course		
履修要件 / Prerequisite		
教科書 / Textbooks	適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。	
参考書 / Reference Books		
備考 / Remarks	https://concm.m.chiba-u.jp/files/1516/4757/8076/cl_innovative.pdf	

自 授業計画詳細情報

/ Course Plan Detailed Information

第1回 (2023/05/11)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	V限: 神経疾患におけるTR (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	神経疾患における橋渡し研究 (トランスレーショナルリサーチ, TR) について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第2回 (2023/05/17)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	V限: トランスレーショナル先端治療学総論 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	トランスレーショナルリサーチの意義や方法とともに、成り立ちの経緯や規制について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第3回 (2023/05/29)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 小児希少がんに対するTR (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	小児希少がんに対するトランスレーショナルリサーチについて学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第4回 (2023/05/30)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	V限: 内分泌・代謝・老年病研究の新展開 (本橋新一郎 先生) 場所: 第1 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	内分泌・代謝・老年病研究の新展開について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第5回 (2023/06/05)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 肺癌に対する免疫治療 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	肺癌に対する新しいがん免疫治療について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第6回 (2023/06/12)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 遺伝子治療によるタンパク質補充療法 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	遺伝子治療によるタンパク質補充療法について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第7回 (2023/06/14)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 月経関連疾患から女性を救うために (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	月経関連疾患を患う女性を対象とした治療について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第8回 (2023/06/21)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 造血器腫瘍の新しい治療法 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	造血器腫瘍に対する新しい治療法について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第9回 (2023/06/26)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 進化するがん薬物療法 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	近年進歩が著しいがんに対する薬物療法について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第10回 (2023/06/28)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 医薬品開発における特許の役割 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	医薬品開発における特許の役割について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第11回 (2023/07/04)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 気管支喘息発症メカニズムとTR (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	気管支喘息発症のメカニズムを基にしたトランスレショナルリサーチについて学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

第12回 (2023/07/05)

主題と位置付け(担当) / Subjects and instructor's position	IV限: 機械学習による疾患層別化予測 (本橋新一郎 先生) 場所: 第3 講義室
授業・学習方法や内容 / Methods and contents	機械学習による疾患層別化予測について学んだことを基に、授業によって得られた疑問点を中心に議論を深める。
備考 / Notes	

Copyright (C) 2010 - 2023 Chiba University All Rights Reserved.

学部学生による大学院授業科目の先行履修にかかる指定科目(令和4年度)

部局名: 医学薬学部

通番	授業コード	授業科目名	単位	ターム	曜日/時限	ナンバリングコード	担当教員	使用言語	履修要件	備考
1	J280001AA	医学薬学研究学説・生命倫理学特論	1	T1	水 6	VC701	本橋 新一郎	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
2	J281001AA	生命情報科学	1	T1	月 6	VC710	田村 裕	英語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
3	J281004AA	機能ゲノム学	1	T2	月 6	VC713	三木 陸司	英語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
4	J281005AA	疾患モデル論	1	T1	月 5	VC714	幡野 雅彦	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
5	J281006AB	プレゼンテーションセミナー/中級I	1	T4-T5(後期)	火 3	VC717	本橋 新一郎	英語	・2年次以上の研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
6	J282114AA	卓越教養特論	2	通年(通期)	通年 他	VC731	中山 俊憲 斎藤 哲一郎	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
7	J281011AB	医薬統計概論	1	T4	木 3	VC722	花岡 英紀	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
8	J281012AB	臨床研究入門	1	T4-T5(後期)	集中 他	VC723	花岡 英紀	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者 ・2年次以上に在籍する研究医専科以外の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望し、卒業が優秀な者、かつ「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ」アドバンストの単位を修得する見込みがある指導教員が認めた者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
9	J282001AA	病態制御治療学特論	1	T3	集中 他	VC740	田中 知明	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
10	J282003AA	難治性疾患診断学特論	1	T3	集中 他	VC742	伊豫 雅臣	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
11	J282005AA	環境医学特論	1	T3	集中 他	VC744	金田 篤志	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
12	J282023AA	分子細胞薬理学特論	1	T3	集中 他	VC769	安西 尚彦	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
13	J282022AA	神経機能構造学特論	1	T3	集中 他	VC748	山口 淳	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
14	J282011AA	成人・高齢者医療特論	1	T3	集中 他	VC750	三木 陸司	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照
15	J282029AA	AI情報医学特論	1	T1	月	VC775	川上 英良	日本語	・2年次以上に在籍する研究医専科の学生で、医学薬学部(4年博士課程)への入学を希望する者	開講時期等は当該年度シラバスを参照

医学部生の大学院授業科目の先行履修について

○研究医枠学生

1. 履修条件

2年次以上に在籍する研究医枠の学生で、医学薬学府（4年博士課程）への入学を希望する者

2. 対象となる授業科目

医学薬学府（4年博士課程）が指定する科目および「大学院共通教育科目」のうちの指定科目

3. 履修可能な単位数の上限

単位数の上限は10単位とする。

4. 履修手続

授業担当教員の承認を得たうえで、学生が自ら履修登録を行う。

5. 成績評価基準

学部学生も大学院学生と同様の基準により評価する。

6. 成績登録

授業担当教員は、履修者に対し成績を登録する。

7. 単位の認定

本学の大学院に進学後、学生からの申請に基づき、大学院科目として単位を認定（既修得単位認定）する。既修得単位認定された科目は医学薬学府の修了要件として取り扱う。

なお、先行履修した科目は学部における卒業要件単位には算入しないこととする。

○認定研究医枠学生

1. 履修条件

2年次以上に在籍する研究医枠以外の学生で、医学薬学府（4年博士課程）への入学を希望し、学業が優秀※な者、かつ「スカラーシップ・アドバンスト」の単位を修得した者又は卒業までに「スカラーシップ・アドバンスト」の単位を修得する見込みがあると指導教員が認めた者

※原則 GPA2.8 以上を基本とするが、必要に応じて科目ごとに別途定めることができるものとする。

2. 対象となる授業科目

医学薬学府（4年博士課程）が指定する科目および「大学院共通教育科目」のうちの指定科目

3. 履修可能な単位数の上限

単位数の上限は6単位とする。

4. 履修手続

授業担当教員の承認を得たうえで、学生が自ら履修登録を行う。

なお、授業担当教員は、履修を承認する際、「スカラーシップ・アドバンスト修得（見込）証明書」により履修条件を満たしているかどうかを確認する。

5. 成績評価基準

学部学生も大学院学生と同様の基準により評価する。

6. 成績登録

授業担当教員は、履修者に対し成績を登録する。

7. 単位の認定

本学の大学院に進学後、学生からの申請に基づき、大学院科目として単位を認定（既修得単位認定）する。既修得単位認定された科目は医学薬学府の修了要件として取り扱う。

なお、先行履修した科目は学部における卒業要件単位には算入しないこととする。

○一般学生

1. 履修条件

4年次に在籍する、研究医枠学生及び認定研究医枠学生に該当しない学生で、本学の大学院への進学を希望し、学業が優秀※な者

※GPA2.8以上を基本とするが、必要に応じて科目ごとに別途定めることができるものとする。

2. 対象となる授業科目

「大学院共通教育科目」のうちの指定科目

3. 履修可能な単位数の上限

単位数の上限は6単位とする。

4. 履修手続

授業担当教員の承認を得たうえで、学生が自ら履修登録を行う。

なお、授業担当教員は、履修を承認する際、当該学生が履修条件を満たしているかどうかを確認する。

5. 成績評価基準

学部学生も大学院学生と同様の基準により評価する。

6. 成績登録

授業担当教員は、履修者に対し成績を登録する。

7. 単位の認定

本学の大学院に進学後、学生からの申請に基づき、大学院科目として単位を認定（既修得単位認定）する。その際の当該科目の修了要件上の取扱いについては、入学した学府・研究科が定めるところによるものとする。

なお、先行履修した科目は学部における卒業要件単位には算入しないこととする。

医 第 1 2 7 7 号
令和 5 年 8 月 1 7 日

厚生労働省医政局長 様

千葉県健康福祉部長
(公 印 省 略)

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和 5 年 8 月 8 日付け 5 文科高第 6 6 9 号、医政発 0807 第 12 号に基づき、
下記のとおり、令和 6 年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うことと
しました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に
定着するよう取組を行います。

記

増員数

3 4 名

- ・ 千葉大学医学部における地域枠 : 1 5 名
- ・ 順天堂大学医学部における地域枠 : 5 名
- ・ 帝京大学医学部における地域枠 : 2 名
- ・ 東邦大学医学部における地域枠 : 5 名
- ・ 日本医科大学医学部における地域枠 : 7 名

千葉県健康福祉部医療整備課

医師確保・地域医療推進室

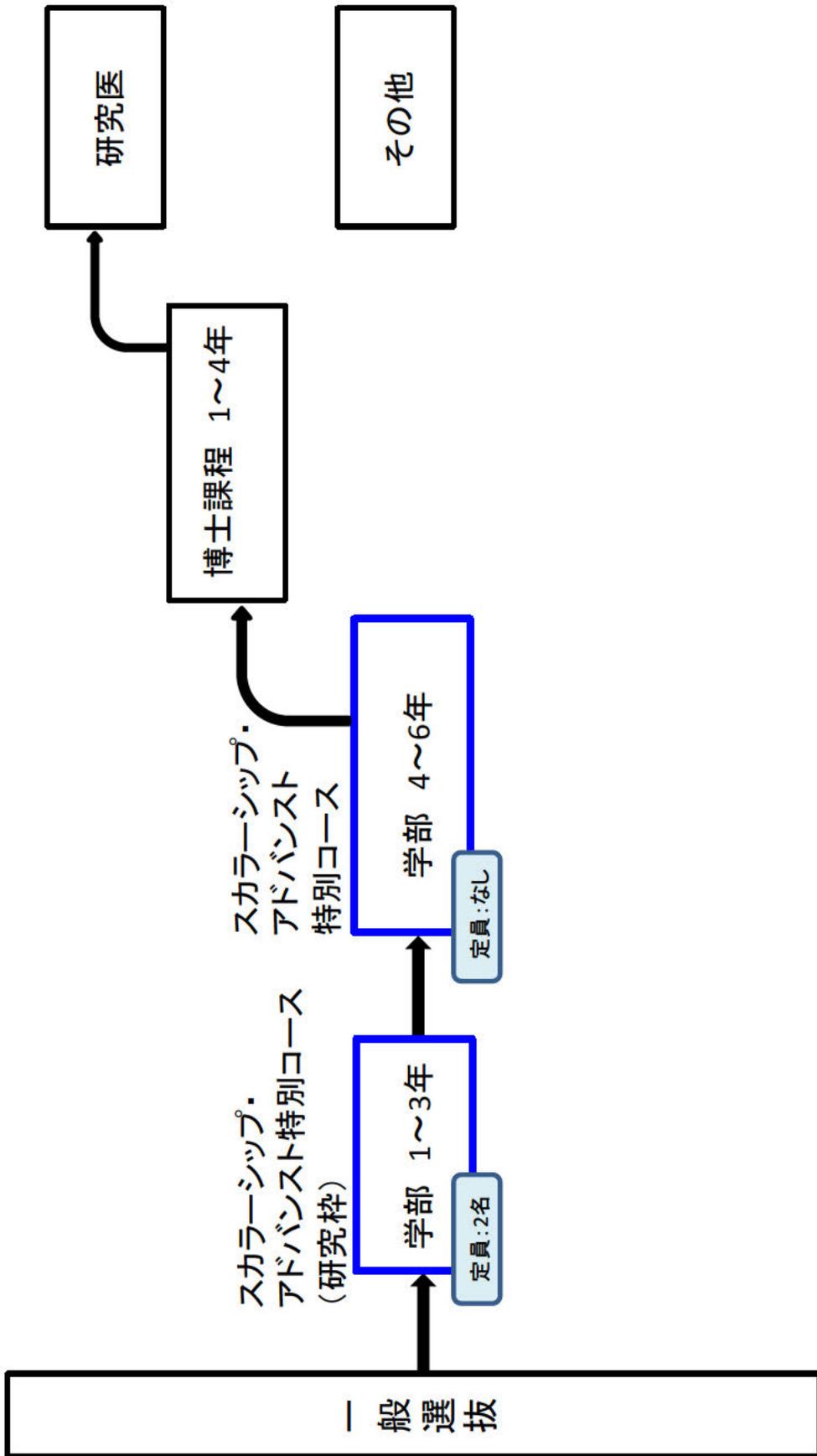
電話 :

FAX :

E-mail :

R5研究医枠定員数:2名
増員開始年度:2013(H25)
R6増員希望数:2名

※青枠は奨学金貸与/給付がある期間



第16回

ちば Basic & Clinical Research Conference

令和5年2月2日(木) 13:00~17:10 於るのはな記念講堂

事務局 千葉大学バイオメディカル研究センター内 担当: 坂本

総合司会

医学部 1年

神尾 真美, 宮野 ひなた

内線

本会はスカラシッププログラムの講義としても位置づけております

13:00 開会の辞

薬理学	教授	安西 尚彦 先生
学生代表 医学部	1年	林 正之

13:10 学生発表

座長	医学部	4年	岡本 昌大
	同	1年	今永 遥斗

“EBウイルス感染が胃癌で誘導するH3K36me2変化とクロマチン活性化”

分子腫瘍学	3年	澤田 郁悠
-------	----	-------

“マルコフ決定過程とクラスタリングを応用した患者集団ごとに最適な治療法の解析”

人工知能(AI)医学	2年	神前 政智
------------	----	-------

“SIP₁を介した制御性 T 細胞による生体恒常性維持機構”

実験免疫学	5年	上野 達矢
-------	----	-------

“DNAバーコードを用いたEBウイルス胃癌発生における不均一性の解析”

分子腫瘍学	4年	石黒 開
-------	----	------

“膠芽腫幹細胞に対する治療戦略の再構築”

脳神経外科学	3年	野口 駿成
--------	----	-------

“橈骨遠位端骨折における尺骨突き上げの影響—有限要素法による解析”

整形外科学	5年	手計 佑紀
-------	----	-------

14:50 講座紹介

座長	疾患生命医学	教授	幡野 雅彦 先生
----	--------	----	----------

“生活習慣病の共通メカニズムを解き明かす”

疾患システム医学	教授	眞鍋 一郎 先生
----------	----	----------

“眼科診療の最先端”

眼科学	教授	馬場 隆之 先生
-----	----	----------

15:40 講評

千葉大学大学院医学研究院長	松原 久裕 先生
---------------	----------

15:50 表彰

機能形態学	教授	山口 淳 先生
るのはな同窓会	会長	吉原 俊雄 先生
千葉大学大学院医学研究院長		松原 久裕 先生

16:20 特別講演

座長	整形外科学	教授	大鳥 精司 先生
----	-------	----	----------

“若き医学生へ—脊椎外科へのいざない”

獨協医科大学医学部長 整形外科学 主任教授	種市 洋 先生
-----------------------	---------

17:05 閉会の辞

機能形態学	教授	山口 淳 先生
-------	----	---------

世話人(敬称略)

徳久剛史	中谷晴昭	中山俊憲	高橋和久	白澤浩	安西尚彦
中島裕史	大鳥精司	山口淳	木村元子	小野寺淳	坂本明美

学生事務局: 林正之, 松本千広, 宮野ひなた, 今永遥斗, 岡本昌大, 神前政智, 迫井優里子, 神尾真美, 上野達矢, 松井久和, 手計佑紀
 主催: 千葉大学大学院医学研究院・医学部
 共催: ちば Basic & Clinical Research Conference 事務局, 千葉医学会, ゐのはな同窓会



基礎医学研究者養成イニシアチブ
2023年度



全国リトリート



会期 | 2023年4月22日(土)~23日(日)

会場 | 東京国際フォーラム
アキバプラザ
東京大学伊藤国際学術研究センター

主幹 | 東京大学・京都大学

ポスター番号表

A

コアタイム 11:30 – 12:30
15:30 – 16:30

- A-1** **森永 聡仁** デジタルホログラフィック技術を用いた顕微鏡とその
神戸大学 6年 生物学的応用
▶ イメージング 光遺伝学 神経回路
- A-2** **樽松 千紘** ミクログリアはホスファチジルセリン依存的に成体新生
名古屋市立大学 6年 ニューロンのシナプスを貪食する
▶ 成体新生ニューロン ミクログリア シナプス刈り込み
- A-3** **寺西 正樹** 超低周波微弱磁場は社会的敗北ストレスモデルマウス
名古屋大学 5年 のうつ様症状を改善する
▶ 磁場 社会的行動 ミトコンドリア活性
- A-4** **古道 万喜** 両耳間時差検出の基盤となる軸索分岐パターンの形成
名古屋大学 5年 に関わる分子スクリーニング
▶ 音源定位 神経回路発達 遺伝子操作
- A-5** **下野 ひな子** うつ病モデルマウスの、モノアミンのGタンパク質共役
東京大学 4年 型受容体の特性解明
▶ うつ病モデル 免疫染色 行動実験
- A-6** **鏡内 麻以** 成熟期視覚喪失による高次視覚野神経回路編成へのミク
名古屋大学 4年 ログリアの寄与
▶ ミクログリア 高次視覚野 二光子顕微鏡
- A-7** **瀬木 健生** RAM systemを用いたS1, S2のバレル領域の標識
大阪大学 4年
▶ 二次体性感覚野 RAM system ボディーマップ
- A-8** **村田 静風** 疾患特異的iPS細胞由来運動神経細胞を用いたALSの病態
京都大学 2年 解析
▶ ALS iPS細胞 RNA結合タンパク質
- A-9** **鷺見 知** コロナ禍における高齢者の飲酒パターン変化とうつ傾向
名古屋大学 4年 の関連
▶ 高齢者 飲酒頻度 うつ傾向
- A-10** **古林 せなみ** マスク着用推奨解除後のマスク着用率について
群馬大学 5年
▶ 感染対策 人工知能 画像処理

ポスター番号表

A

コアタイム 11:30 – 12:30
15:30 – 16:30

- A-11** **渡邊 萌音** 子宮体癌における腫瘍関連マクロファージの役割の解明
横浜市立大学 4年
▶ バイオインフォマティクス 腫瘍関連マクロファージ 子宮体癌
- A-12** **太田 礼美** 胸腺好酸球はT細胞系列の細胞によって誘導される
東京大学 6年
▶ 胸腺 好酸球 T細胞
- A-13** **宮川 宏佳** アルドステロン産生腺腫2症例の臨床的特徴とin vitroでのステロイド合成阻害薬の作用比較
千葉大学 6年
▶ アルドステロン産生腺腫 ステロイド合成阻害薬 primary culture
- A-14** **橘田 真理** オートファジーによるゴルジ体分解の分子機構
大阪大学 6年
▶ 選択的オートファジー オルガネラ分解 オートファジー受容体
- A-15** **来栖 玲央** 超分子複合体vaultはp62 bodyを介した選択的オートファジーで分解される
順天堂大学 5年
▶ オートファジー 液-液相分離 vault
- A-16** **山田 麻緒** KRAS G12C変異非小細胞肺癌細胞に対するファルネシルトランスフェラーゼ阻害薬の効果の検討
名古屋大学 4年
▶ KRAS G12C阻害薬 ファルネシルトランスフェラーゼ阻害薬 mTOR経路
- A-17** **八十島 左京** 放射線防護薬としての葉酸 ~RNA-Seqを用いた機構解析~
三重大学 3年
▶ 放射線障害 葉酸 RNA-Seq 先天異常
- A-18** **柴田 哲希** クライオ電子顕微鏡単粒子解析法による逆行性キネシンNcdの微小管上移動の高分解能スナップショット
神戸大学 4年
▶ 逆行性キネシン クライオ電子顕微鏡単粒子解析 微小管
- A-19** **加藤 嘉崇** 卵母細胞発生過程における遺伝子発現動態の種間比較解析
京都大学 6年
▶ 胎児 卵母細胞 X染色体 単一細胞遺伝子発現解析 ノイズ削減
- A-20** **石倉 柗真** Salt-inducible kinase 3 (SIK3) がエンドサイトーシスとエキソサイトーシスに与える可能性
山梨大学 3年
▶ SIK3 Endocytosis Exocytosis

ポスター番号表

B

コアタイム 12:30 – 13:30
16:30 – 17:30

B-1

福瀬 弘朗

神戸大学 6年 Deep Learningを用いたストレスによるミクログリア
応答を制御する転写因子の推定

▶ ミクログリア エピゲノム 機械学習

B-2

有馬 洋道

順天堂大学 6年 前脳基底部のコリン作動性およびGABA作動性ニュー
ロン軸索の投射先解析

▶ 投射先解析 アセチルコリン GABA

B-3

中原 廣大

神戸大学 6年 PHOX2B点変異による神経芽腫誘導機構の解明

▶ PHOX2B 神経芽腫 遺伝子改変マウス

B-4

岡本 昌大

千葉大学 5年 腸炎における腸管神経および腸管免疫の相互作用

▶ 腸管神経 腸管免疫 腸炎誘発モデル

B-5

佐藤 智英

東京大学 5年 徐波睡眠発火パターンにおけるNaダイナミクスの役割
の数理的考察

▶ 睡眠 イオンチャネル 数理

B-6

織井 亮匡

神戸大学 5年 迷走神経下神経節の遺伝学的可視化による臓器感覚機構
の解明

▶ 迷走神経 遺伝子改変マウス 免疫組織染色

B-7

國島 志穂

名古屋大学 4年 加齢に伴う認知機能低下への白質障害の寄与

▶ オリゴデンドロサイト 二光子顕微鏡 アルツハイマー型認知症

B-8

村井 裕希

京都大学 3年 前帯状皮質における場所細胞と空間文脈細胞の海馬依存
的形成と記憶固定化への寄与

▶ 場所細胞 空間文脈細胞 海馬 前帯状皮質 記憶固定化

B-9

井上 滯

名古屋大学 3年 多感覚統合をつかさどる高次視覚野の神経回路基盤

▶ 感覚統合 in vivoイメージング 神経回路

B-10

高橋 彩夏

群馬大学 5年 外国人住民の情報入手の実態と認識

▶ 新型コロナワクチン 外国人住民 質的分析

ポスター番号表

B

コアタイム 12:30 – 13:30
16:30 – 17:30

B-11

吉葉 早織

順天堂大学 5年 抗菌ペプチドであるAMP-IBP5の乾癬に対する治療効果の検討

▶ 皮膚科 抗菌ペプチド 乾癬

B-12

神津 隆之介

千葉大学 4年 一細胞解析、複合体解析による2型自然リンパ球の肝糖新生抑制機序の検討

▶ ILC2 シングルセル解析 糖新生

B-13

鈴木 暢英

東京大学 6年 ファロー四徴症関連小胞体膜タンパク質TMEM260の機能解析

▶ 先天性心疾患 膜タンパク質 糖転移

B-14

中桐 悠一郎

東京大学 6年 FRETシステムを用いた血管内皮細胞における低分子量Gタンパク質活性の時空間的解析

▶ 血管新生 Gタンパク質 ライブイメージング

B-15

菌部 亮祐

名古屋大学 6年 非翻訳RNA TUG1によるDNAポリメラーゼータの発現上昇は卵巣がんのシスプラチン耐性獲得に關与する

▶ 非翻訳RNA 卵巣がん 薬剤耐性

B-16

中瀬 隼斗

三重大学 3年 非アルコール性脂肪性肝炎の疾患状態シグネチャーの探索

▶ 非アルコール性脂肪性肝炎 疾患状態シグネチャー 加重遺伝子共発現ネットワーク解析

B-17

野沢 裕貴

順天堂大学 2年 DIY小型光シート顕微鏡の構築と三次元組織観察応用

▶ ライトシート顕微鏡 組織透明化 三次元イメージング

B-18

守田 悠彦

名古屋大学 5年 深層学習モデルと生成モデルを用いた2光子顕微鏡画像の高解像度化

▶ 2光子顕微鏡 深層学習 生成モデル

B-19

藤井 洸太郎

滋賀医科大学 3年 走査型トンネル顕微鏡法によるアミロイドβ(1-42)低量体の構造解析

▶ 走査型トンネル顕微鏡法 アミロイドβ(1-42) 密度汎関数理論計算

I-1

織井 亮匡

神戸大学 5年

迷走神経下神経節の遺伝学的可視化による臓器感覚機構の解明

▶ 迷走神経 遺伝子改変マウス 免疫組織染色

I-2

樽松 千紘

名古屋市立大学 6年

ミクログリアはホスファチジルセリン依存的に成体新生ニューロンのシナプスを貪食する

▶ 成体新生ニューロン ミクログリア シナプス刈り込み

I-3

村井 裕希

京都大学 3年

前帯状皮質における場所細胞と空間文脈細胞の海馬依存的形成と記憶固定化への寄与

▶ 場所細胞 空間文脈細胞 海馬 前帯状皮質 記憶固定化

I-4

岡本 昌大

千葉大学 5年

腸炎における腸管神経および腸管免疫の相互作用

▶ 腸管神経 腸管免疫 腸炎誘発モデル

I-5

八十島 左京

三重大学 3年

放射線防護薬としての葉酸 ~RNA-Seqを用いた機構解析~

▶ 放射線障害 葉酸 RNA-Seq 先天異常

I-6

森永 聡仁

神戸大学 6年

デジタルホログラフィック技術を用いた顕微鏡とその生物学的応用

▶ イメージング 光遺伝学 神経回路



- II-1 柴田 哲希** クライオ電子顕微鏡単粒子解析法による逆行性キネシン
 神戸大学 4年 Ncdの微小管上移動の高分解能スナップショット
 ▶ 逆行性キネシン クライオ電子顕微鏡単粒子解析 微小管
- II-2 橘田 真理** オートファジーによるゴルジ体分解の分子機構
 大阪大学 6年
 ▶ 選択的オートファジー オルガネラ分解 オートファジー受容体
- II-3 来栖 玲央** 超分子複合体vaultはp62 bodyを介した選択的オート
 順天堂大学 5年 ファジーで分解される
 ▶ オートファジー 液-液相分離 vault
- II-4 鈴木 暢英** ファロー四徴症関連小胞体膜タンパク質TMEM260の
 東京大学 6年 機能解析
 ▶ 先天性心疾患 膜タンパク質 糖転移
- II-5 宮川 宏佳** アルドステロン産生腺腫2症例の臨床的特徴とin vitro
 千葉大学 6年 でのステロイド合成阻害薬の作用比較
 ▶ アルドステロン産生腺腫 ステロイド合成阻害薬 primary culture

口頭発表一覧



セッション 14:00 – 15:00

III-1

藺部 亮祐

名古屋大学 6年 非翻訳RNA TUG1によるDNAポリメラーゼイータの発現上昇は卵巣がんのシスプラチン耐性獲得に関与する

▶ 非翻訳RNA 卵巣がん 薬剤耐性

III-2

渡邊 萌音

横浜市立大学 4年 子宮体癌における腫瘍関連マクロファージの役割の解明

▶ バイオインフォマティクス 腫瘍関連マクロファージ 子宮体癌

III-3

福瀬 弘朗

神戸大学 6年 Deep Learningを用いたストレスによるミクログリア応答を制御する転写因子の推定

▶ ミクログリア エピゲノム 機械学習

III-4

古林 せなみ

群馬大学 5年 マスク着用推奨解除後のマスク着用率について

▶ 感染対策 人工知能 画像処理

口頭発表賞 投票フォーム

締切：2日目 15:00

<https://forms.gle/va1MzheTsFhDRwiZ6>



（資料6） アスパイア・プロジェクト実施要領

目的

個々の学生がアスパイア・プロジェクト期間の活動計画を主体的に立案し、準備・実施し、振り返ることにより、医学・医療に携わる者としてのプロフェッショナリズム等を向上させる。

学習アウトカム

- 個々の学生の活動内容によって関連する学習アウトカムは異なる。
- 活動内容にかかわらず共通する学習アウトカムを以下に示す。

I. 倫理観とプロフェッショナリズム

1. 倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
2. 法的責任・規範を遵守する。
3. 他者の尊厳を尊重し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。
5. 常に自己を評価・管理し、自分の知識、技能、行動に責任を持つことができる。
7. 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。

アスパイア・プロジェクト

- 5年次12月～6年次10月のうち8週間をアスパイア・プロジェクト期間とする。
 - ▶ アスパイア・プロジェクト期間は学生によって異なる。（臨床実習の診療科ローテーションと同様）
 - ▶ アスパイア・プロジェクト期間は、多くの場合は連続する8週間となるが、5年次12月の4週間と6年次10月の4週間に分散することもある。
- アスパイア・プロジェクトのうち、計10日以上を主活動期間とする。主活動は期間を分散して実施してもかまわない。1日当たりの活動時間は4.5時間を目安とし、合計45時間以上の活動をもって主活動と認定する。なお、科目を履修して1単位以上取得する場合、主活動が計10日未満でも可とする。
- アスパイア・プロジェクトのうち、主活動期間以外は自由活動期間とする。
- 主活動の実施と報告は、臨床実習Ⅱの単位認定要件となる。主活動が未実施の場合、適切に実施されなかった場合、報告書の提出がない場合、報告書の質が明らかに低い場合のいずれかに該当する場合は、臨床実習Ⅱの単位が認定されず、翌年度以降の主活動の適切な実施をもって臨床実習Ⅱの単位認定が行われる。この場合、臨床実習Ⅱの再履修は必要ではない。

主活動の内容

上記の目的、学習アウトカムを達成できるもので、以下のいずれかの活動に該当し、所定の手続きによって承認されたもの

1. 研究・学術活動（例：基礎医学、臨床医学、社会医学、専門科目や普遍教育科目の履修）
2. 海外での活動（例：研究、臨床、語学研修、ボランティア研修）

主活動の計画・準備

- 計画の概要を作成する。（締め切り：4年次12月）
 - ▶ 所定の様式（様式1-1）に計画の概要を記入する。
 - ▶ 計画の概要作成にあたっては、紹介先候補リストやボランティア活動リストを参考にし、関係する講座からの助言を受けてもよい。

- 計画の概要が主活動として適切であることの評価を受ける。
 - ▶ 計画内容に関連が深い教員（原則として講師以上）に評価を依頼する。同教員がアスパイア・プロジェクトを通じての担当評価者となる。
 - ☆担当評価者は、スカラシップ担当教員、担当メンターなどが考えられる。
 - ▶ 評価結果をふまえて、必要に応じて計画の概要を修正する。
- 計画の詳細を作成する。（締め切り：5年次9月）
 - ▶ 所定の様式（様式1-2）に詳細な計画を作成する。
 - ▶ 計画の詳細は、計画の概要と合わせて、アスパイア・プロジェクト開始4週前までに医学部学務係に提出する。
- 計画の実施にむけて準備を行う。

備考：共通の目標に向かって複数学生が協働して活動する場合に限り、チーム活動も可とする。この場合、各学生の役割は明確でなければならない。また、上記の計画（様式1-1、1-2）に加え、チーム活動の計画（様式1-3）も作成し、併せて主査・副査の承認を受けて医学部学務係に提出しなければならない。

主活動の計画の変更

- 主活動の計画を変更せざるを得ない正当な理由が生じた場合、その計画を変更することができる。正当な理由には以下のものが含まれる。
 - ▶ 公欠に該当する事由、主活動の実施受入体制・実施場所等に関する事由、本人の疾病・ケガ、自然災害、その他学部学務委員会が正当と認める事由
- 主活動の計画の概要に変更が生じる場合
 - ▶ 所定の様式（様式1-4）に変更理由を記入し、新たな計画の概要を作成する。
 - ▶ 担当評価者から、アスパイア・プロジェクト開始の8週前までに変更の承認を受ける。
 - ▶ 所定の様式（様式1-2）にしたがって新たな計画詳細を修正する。
 - ▶ 適宜、担当メンターやその他の関係者からの助言を受ける。
 - ▶ 新たな計画の概要および詳細を、アスパイア・プロジェクト開始の4週前までに医学部学務係に提出する。
- 主活動の計画の概要に変更がなく、計画の詳細（様式1-2の記載内容）に変更が生じる場合
 - ▶ 所定の様式（様式1-2）に新たな計画詳細を記入する。
 - ▶ 修正後の計画詳細を、アスパイア・プロジェクト開始の4週前までに医学部学務係に提出する。

主活動の実施

- 計画にしたがって主活動を実施する。
 - ▶ 主活動実施中のやむを得ない正当な理由による計画の変更は容認される。正当な理由には以下のものが含まれる。
 - ▶ 公欠に該当する事由、主活動の実施受入体制・実施場所等に関する事由、本人の疾病・ケガ、自然災害、その他学部学務委員会が正当と認める事由

主活動を実施できなかった場合

- 臨床実習およびアスパイア・プロジェクト期間外の任意の期間に主活動を実施する。
- 原則として当初計画の通りに主活動を実施するが、正当な理由によって計画を変更する場合は、「主活動の計画の変更」の手順にしたがう。
 - ▶ 締切は設定できないため、可及的速やかに手順を進めることを原則とする。
- 主活動を未実施の場合、臨床実習Ⅱの単位を認定できない。この場合、翌年度以降の主活動の適切な実施をもって臨床実習Ⅱの単位認定が行われる。臨床実習Ⅱの再履修は必要ではない。

主活動の報告

- 報告書を作成する。
 - ▶ 所定の様式（様式2-1）にしたがって報告書を作成し、担当評価者、医学部学務係に提出する。
 - ☆担当評価者は、報告書の内容を確認し、主活動が適切に実施されたことを確認する。
 - ☆報告書の提出がない場合、報告書の質が明らかに低い場合、主活動が適切に実施されなかった場合は、臨床実習Ⅱの単位を認定できない。この場合、翌年度以降の主活動の適切な実施をもって臨床実習Ⅱの単位認定が行われる。臨床実習Ⅱの再履修は必要ではない。
- 主活動実施中にやむを得ない正当な理由によって計画を変更して実施した場合、変更内容をその理由とともに所定の様式（様式2-2）に記入し、報告書（様式2-1）とともに医学部学務係に提出する。
- 各学生の報告書は年度ごとに一つのファイルにまとめられ、全学生および教員に配布される。

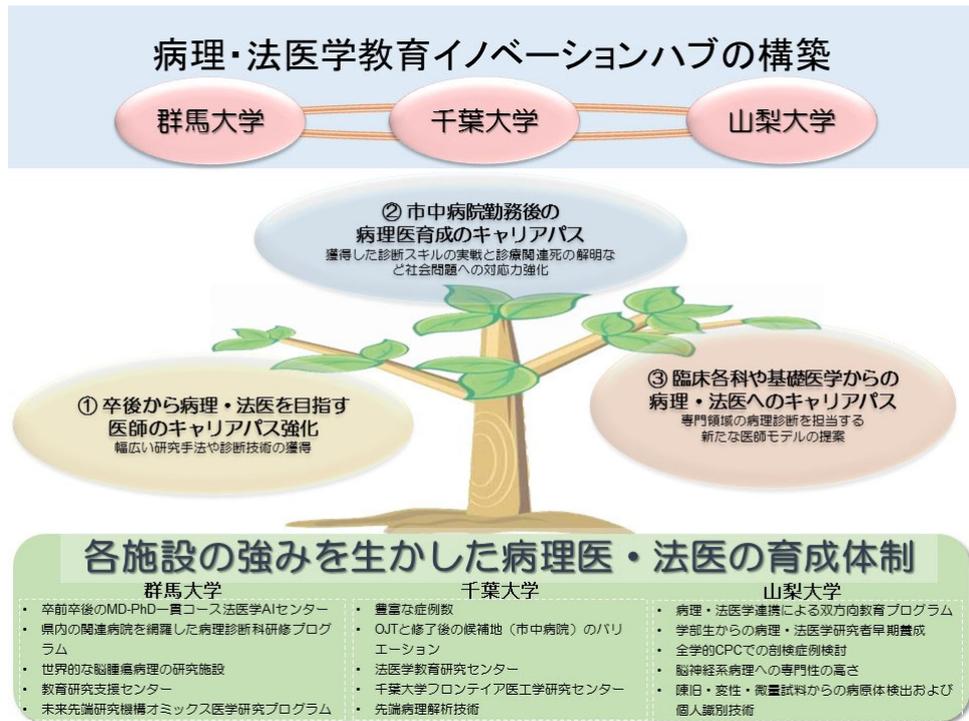
アスパイア・プロジェクト報告会

- アスパイア・プロジェクト報告会で、主活動の実施内容および成果を発表する。
- 同報告会は年に複数回開催される。（開催毎に発表者が異なる）
- 同報告会への下級生の参加を強く推奨する。

本プログラムの目的は、①病理・法医学を志す医師の育成強化、地域医療への貢献として②市中病院で専門医を取得して診療に従事している医師を対象とする社会人大学院の拡充、そして③臨床各科の専門医と基礎医学への進路を希望する医師を対象に専門医取得のサポートを行って、研究と地域医療の両面から医師不足解消に貢献することです。このため、千葉・群馬・山梨の三大学連携によって病理・法医学研究医育成のプラットフォームを整備し、教育イノベーションハブの構築を行います。

本プログラムを履修いただくことのメリットは、病理・法医学研究医プログラム修了者のキャリアパスの明確化にあります。このため同プログラムでは、病理・法医学研究医の礎となる基礎と臨床医学の知識および先端技術の取得、基礎医学の成果を臨床へトランスレーションする際のリーダーとして必要なすべてを学べる体制を提供いたします。例えば、教育イノベーションハブは病理・法医学研究医の育成に必要な人的・物的リソースの共有を行いますので、各大学とその関連病院や部局をこえたOn the Job-Trainingを経験し、実践に即した知識と経験を取得することができます。これに加え、三大学の連携により確保する「修了者の希望に合うポジション」により、病理医・法医としてのキャリアスタートを支援いたします。

このように、病理・法医学研究医としての実力を培う環境整備と、終了後のキャリアパスを明確にした病理医・法医育成のプログラムを開始いたしますので、ご参加をお待ちいたしております。



病理・法医学教育のイノベーションハブの構築

各施設の強みを生かした病理医・法医の育成体制

群馬大学

- ・ 卒前卒後のMD-PhDコース
- ・ 法医学AIセンター
- ・ 県内の関連病院を網羅した病理診断科研修プログラム
- ・ 世界的な脳腫瘍病理の研究施設
- ・ 教育研究支援センター
- ・ 未来先端研究機構オミックス医学研究プログラム

千葉大学

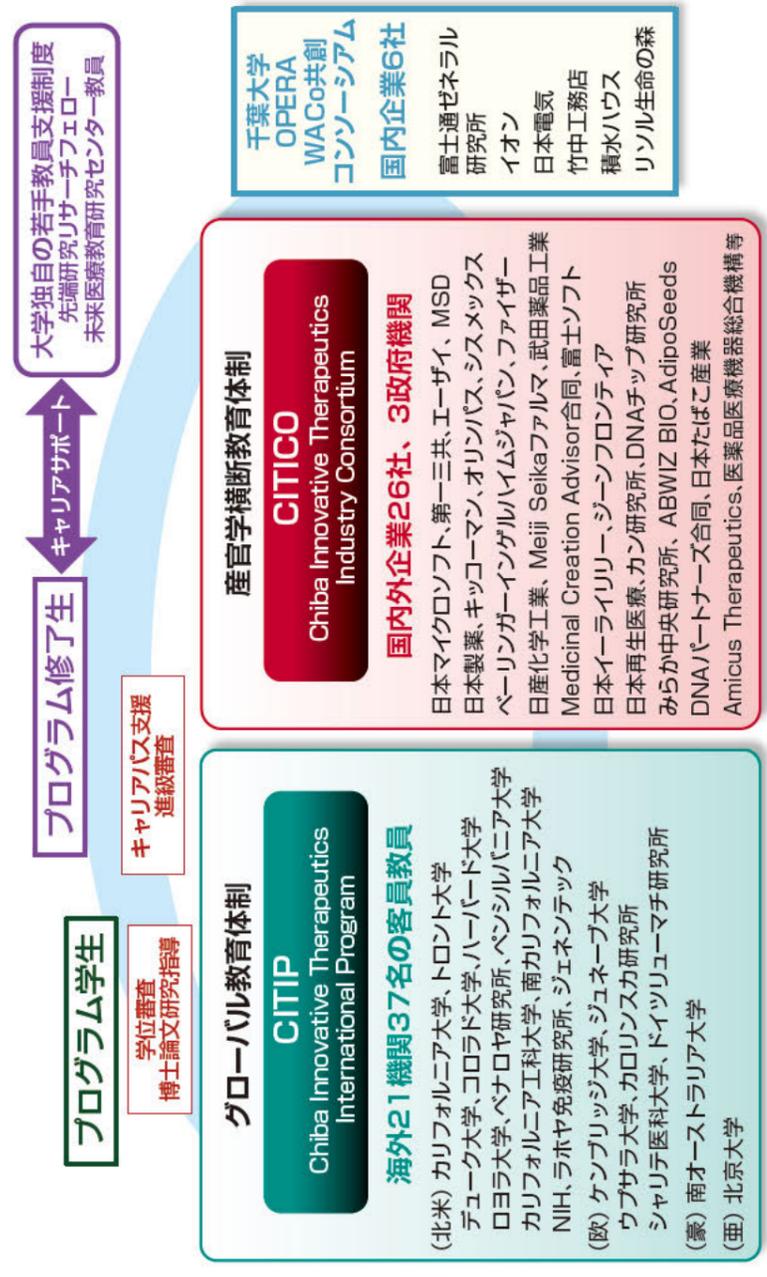
- ・ 豊富な症例数
- ・ OJTと修了後の候補地（市中病院）のバリエーション
- ・ 法医学教育研究センター
- ・ 千葉大学フロンティア医工学研究センター
- ・ 先端病理解析技術

山梨大学

- ・ 病理・法医学連携による双方向教育プログラム
- ・ 学部生からの病理・法医学研究者早期養成
- ・ 全学的CPCでの剖検症例検討
- ・ 脳神経系病理への専門性の高さ
- ・ 陳旧・変性・微量試料からの病原体検出および個人識別技術

支援体制・教育体制

独自の教育システムと学生の支援体制



産官学連携サステイナブル大学院教育体制

「知と人材、企業資金を循環させる」新しい産官学連携システム、新産業の創出



プログラム担当者

中谷 晴昭	プログラム責任者 理事(企画 人事担当) 副学長
高藤 哲一郎	プログラムコーディネーター 大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授 副学長 医学系学術長
石橋 正己	プログラムサブコーディネーター 大学院医学研究院 創薬科学講座 教授 副研究院長
清野 宏	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 特任教授 Professor, Dept. of Medicine, UC San Diego, USA
森部久仁一	大学院薬学研究院 創薬科学 教授 薬学研究院長
川上 英良	大学院医学研究院 イノベーション治療学研究講座 教授
羽石 秀昭	フロンティア工学センター長 教授
森 千里	大学院医学研究院 環境健康科学講座 教授 予防医学センター長
中島 裕史	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授
木村 元子	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授
三木 隆司	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授
金田 篤志	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授 副研究院長
川島 博人	大学院薬学研究院 ゲノム創薬学講座 教授
武居 昌宏	大学院工学研究院 基幹工学専攻 教授 副学長
横手 幸太郎	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授 副学長 附属病院院長
本橋 新一郎	大学院医学研究院 先端がん治療学研究講座 教授
松宮 護郎	大学院医学研究院 呼吸 循環治療学研究講座 教授
眞鍋 一郎	大学院医学研究院 イノベーション治療学研究講座 教授
加藤 直也	大学院医学研究院 消化器治療学研究講座 教授 副研究院長
浅沼 克彦	大学院医学研究院 消化器治療学研究講座 教授
辻 比呂志	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST病院長 (大学院医学研究院 客員教授)
伊藤 素行	大学院薬学研究院 ゲノム創薬学講座 教授
秋田 英万	大学院薬学研究院 分子薬物治療学講座 教授
田村 裕	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 准教授
伊藤 晃成	大学院薬学研究院 分子薬物治療学講座 教授
笹川 千尋	一般財団法人 日本生物科学研究所 長 高次機能治療学センター長
石川 文彦	国立研究開発法人 理化学研究所 生命医科学研究所 グループリーダー(大学院医学研究院 客員教授)
劉 浩	大学院工学研究院 基幹工学専攻 教授
俞 文偉	フロンティア工学センター 教授
池原 謙	大学院医学研究院 先端がん治療学研究講座 教授
大鳥 精司	大学院医学研究院 脳神経治療学研究講座 教授 副研究院長
山田 滋	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 QST病院副院長 (大学院医学研究院 客員教授)
榎田 創	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 電子光技術研究部門 先進プロセスグループ 研究グループ長 (大学院医学研究院 客員教授)
村田 武士	大学院理学研究院 機能物質化学講座 教授
幡野 雅彦	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授

小原 收	未来医療教育研究機構 特任教授 公益財団法人 かずさDNA研究所 ゲノム事業推進部 副所長 (大学院医学研究院 客員教授)
正木 治恵	大学院看護学研究科 看護学専攻 教授
森 恵美	大学院看護学研究科 看護学専攻 教授
後藤 英司	大学院薬学研究科 環境薬学専攻 教授
米山 光俊	薬学研究所 センター 感染症分野 教授
長根(齋藤)裕美	大学院社会科学部 教授
古関 明彦	大学院医学研究院 高次機能治療学研究講座 教授 副研究院長 国立研究開発法人 理化学研究所 生命医科学研究所 センター 副センター長
川瀬 貴之	大学院社会科学部 教授 グローバル関係融合研究センター 准教授
関 信男	シスメックス株式会社 中央研究所 第二研究グループ 部長 (大学院医学研究院 客員教授)
小見 和也	合同会社H.U.グループ 中央研究所 職務執行者社長 (大学院医学研究院 客員教授)
一川 隆史	武田薬品工業株式会社 リサーチ・イノベーション推進部 課長 ドラッグデバイスカバードラスティック株式会社 (大学院医学研究院 客員教授)
河野 剛志	日本ペーリンガーインゲルヘルハイム株式会社 事業開発&ライセンス部 マネージャー(大学院医学研究院 客員教授)
榎本 宏之	ゼリア新薬工業株式会社 メディカルアフェアーズ統括部 部長 炎症領域 部長(大学院医学研究院 客員教授)
藤沼 賢	オリックス株式会社 イノベーション推進部 課長代理 (大学院医学研究院 協力研究員)
的場 亮	株式会社DNAチップ研究所 代表取締役社長 (大学院医学研究院 客員教授)
味戸 慶一	一般財団法人 北里環境科学センター 常務理事 所長 (大学院医学研究院 客員教授)
海老原 隆	ジーンフロンティア株式会社 取締役 最高執行責任者 (大学院医学研究院 客員教授)
小泉 信一	Medicinal Creation Advisor 合同会社 代表社員 (大学院医学研究院 客員教授)
榎原 彰	日本マイクロソフト株式会社 執行役員 最高技術責任者(CTO)、 兼 マイクロソフト デバイスメント株式会社 代表取締役社長 (大学院医学研究院 客員教授)
David Brenner	Professor, Vice Chancellor for Health Sciences, School of Medicine, UC San Diego, USA
Stephen Hedrick	Chancellor's Associates Chair VII, Professor, Div. of Biological Sciences, UC San Diego, USA
Steven F. Ziegler	Director, Academic Affairs, Benaroya Research Institute, USA (大学院医学研究院 客員教授)
Omid Akbari	Professor, Dept. of Molecular Microbiology and Immunology, University of Southern California, Keck School of Medicine, USA(大学院医学研究院 客員教授)
Naoto Hirano	Professor, Dept. of Immunology, University of Toronto, Canada (大学院医学研究院 客員教授)
Mitchell Kronenberg	Professor, President and Chief Scientific Officer, La Jolla Institute for Immunology, USA (大学院医学研究院 客員教授)
Peter Ernst	Professor, Dept. of Pathology, Head, Div. of Comparative Pathology and Medicine, UC San Diego, USA (大学院医学研究院 特命教授)
Andreas Diefenbach	Professor and Director, Dept. of Rheumatology and Clinical Immunology, Charité Medical University Berlin, Germany (薬学研究所 センター 客員教授)
Alfred Singer	Chief, Experimental Immunology Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health, USA (大学院医学研究院 客員教授)

(2021年4月1日現在)

①研究者が所属する研究機関別 採択件数 上位30機関
(令和4年度 新規採択分)

	機関名	採択率	採択件数
1	東京大学	39.7%	1,298
2	京都大学	41.3%	990
3	大阪大学	36.6%	888
4	東北大学	36.0%	794
5	九州大学	33.3%	693
6	名古屋大学	36.4%	620
7	北海道大学	34.2%	550
8	筑波大学	30.8%	449
9	広島大学	31.6%	409
10	慶應義塾大学	40.9%	358
11	神戸大学	32.7%	350
12	岡山大学	32.1%	341
13	早稲田大学	39.3%	325
14	千葉大学	35.2%	319
15	金沢大学	34.1%	303
16	東京工業大学	36.7%	291
17	国立研究開発法人理化学研究所	34.8%	289
18	新潟大学	31.9%	281
19	東京医科歯科大学	37.1%	261
19	順天堂大学	31.2%	261
21	国立研究開発法人産業技術総合研究所	28.6%	246
22	熊本大学	30.1%	232
23	長崎大学	33.0%	228
24	立命館大学	31.3%	226
25	日本大学	20.5%	198
26	信州大学	28.7%	197
27	鹿児島大学	24.8%	178
28	山口大学	33.7%	166
29	大阪市立大学	27.5%	159
30	富山大学	24.8%	153

- (注1)「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究、公募研究及び成果取りまとめ経費」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究」、「挑戦的研究」、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び国際共同研究強化(B))」について分類。
(注2)研究代表者が所属する研究機関により整理。採択件数が同数の場合は機関番号順に掲載。
(注3)新規応募件数が50件以上の研究機関を対象に分析。(採択率=採択件数/応募件数)

48. 生体の構造と機能およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	東北大学	65.0	247,000	157.0
2	国立大学	大阪大学	61.0	210,900	179.0
3	国立大学	京都大学	54.0	337,200	174.0
4	国立大学	東京大学	40.0	223,700	144.0
5	国立大学	名古屋大学	39.0	114,900	104.0
6	国立大学	北海道大学	32.0	91,800	76.0
6	特殊法人・独立行政法人等	国立研究開発法人理化学研究所	32.0	152,000	89.0
8	国立大学	東京医科歯科大学	29.0	92,000	89.0
8	国立大学	金沢大学	29.0	62,900	95.0
10	国立大学	神戸大学	27.0	65,300	92.0

49. 病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	大阪大学	177.0	865,200	486.0
2	国立大学	東京大学	159.0	498,400	439.0
3	国立大学	京都大学	116.0	340,500	291.0
4	国立試験研究機関	国立感染症研究所	95.0	169,100	317.0
5	国立大学	東京医科歯科大学	73.0	184,300	199.0
6	国立大学	北海道大学	66.0	178,300	210.0
6	私立大学	慶應義塾大学	66.0	214,100	150.0
8	国立大学	九州大学	55.0	159,100	159.0
9	国立大学	千葉大学	51.0	175,500	155.0
10	国立大学	長崎大学	48.0	97,200	226.0

50. 腫瘍学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	東京大学	102.0	301,400	258.0
2	特殊法人・独立行政法人等	国立研究開発法人国立がん研究センター	94.0	204,000	264.0
3	一般社団法人・一般財団法人	公益財団法人がん研究会	90.0	269,700	173.0
4	国立大学	大阪大学	78.0	196,100	254.0
5	国立大学	京都大学	73.0	276,600	179.0
6	国立大学	九州大学	69.0	131,900	209.0
7	国立大学	金沢大学	65.0	140,900	150.0
8	私立大学	慶應義塾大学	61.0	135,800	153.0
9	国立大学	熊本大学	57.0	109,000	180.0
10	国立大学	東北大学	55.0	111,300	165.0

51. ブレインサイエンスおよびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	京都大学	67.0	347,700	180.0
2	国立大学	大阪大学	41.0	191,800	143.0
3	私立大学	順天堂大学	40.0	69,300	93.0
3	特殊法人・独立行政法人等	国立研究開発法人理化学研究所	40.0	142,600	109.0
5	国立大学	東京大学	37.0	162,000	98.0
6	国立大学	名古屋大学	30.0	69,500	71.0
7	国立大学	筑波大学	25.0	60,700	112.0
8	国立大学	北海道大学	24.0	113,900	68.0
8	国立大学	新潟大学	24.0	61,100	85.0
10	一般社団法人・一般財団法人	公益財団法人東京都医学総合研究所	22.0	96,500	65.0

52. 内科学一般およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	京都大学	180.0	391,400	353.0
2	国立大学	大阪大学	169.0	315,500	461.0
3	国立大学	東北大学	164.0	324,600	421.0
4	国立大学	名古屋大学	149.0	323,100	398.0
5	国立大学	東京大学	141.0	253,400	340.0
6	私立大学	順天堂大学	133.0	250,500	404.0
7	国立大学	九州大学	130.0	234,400	354.0
8	国立大学	神戸大学	113.0	170,300	244.0
9	特殊法人・独立行政法人等	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	111.0	196,600	222.0
10	私立大学	慶應義塾大学	109.0	191,800	244.0

53. 器官システム内科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	東京大学	238.0	555,500	429.0
2	国立大学	大阪大学	176.0	331,800	335.0
3	国立大学	京都大学	154.0	335,300	244.0
4	私立大学	慶應義塾大学	150.0	406,900	349.0
5	国立大学	東北大学	130.0	212,200	303.0
5	国立大学	東京医科歯科大学	130.0	331,800	242.0
7	国立大学	名古屋大学	121.0	248,200	233.0
8	私立大学	順天堂大学	118.0	168,100	448.0
9	国立大学	新潟大学	100.0	197,100	250.0
10	国立大学	金沢大学	93.0	158,300	223.0

54. 生体情報内科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	東京大学	129.0	398,400	300.0
2	国立大学	龍谷大学	104.0	216,100	231.0
3	国立大学	大阪大学	96.0	240,700	231.0
4	国立大学	京都大学	92.0	181,500	180.0
5	国立大学	九州大学	73.0	240,000	161.0
6	国立大学	東北大学	66.0	161,700	175.0
7	私立大学	慶應義塾大学	61.0	105,200	148.0
8	国立大学	長崎大学	60.0	86,300	179.0
8	私立大学	順天堂大学	60.0	94,400	233.0
10	国立大学	神戸大学	59.0	112,700	144.0

55. 恒常性維持器官の外科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	大阪大学	238.0	457,800	538.0
2	国立大学	九州大学	149.0	301,000	363.0
3	国立大学	東北大学	138.0	203,200	304.0
4	国立大学	岡山大学	108.0	169,200	201.0
5	国立大学	千葉大学	100.0	190,600	266.0
5	国立大学	京都大学	100.0	188,200	212.0
7	国立大学	名古屋大学	98.0	183,800	318.0
8	国立大学	山口大学	79.0	122,800	172.0
9	国立大学	広島大学	76.0	162,300	214.0
9	私立大学	慶應義塾大学	76.0	146,400	174.0